三郷町教育委員会
教育に関する事務の点検及び評価報告書
（平成２４年度実施分）

平成２５年９月

三郷町教育委員会

目　　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅰ　点検・評価の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅱ　町教育委員会の活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅲ　施策及び事業の点検・評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
１．三郷町第４次総合計画との対応関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
２．平成２４年度主要事業と進捗状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
３．点検・評価項目
①学校施設の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
②教職員研修の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
③就園・就学の支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
④特別支援教育の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
⑤情報・国際教育の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
⑥いじめ・不登校の対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
⑦地域の教育力の向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
⑧安全・安心の学校づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
⑨学校給食体制の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
⑩幼児教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
⑪放課後児童クラブの充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
⑫生涯学習の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
⑬青少年の健全育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
⑭人権教育・啓発の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
⑮文化センターの充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
⑯文化活動への支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
⑰図書館の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
⑱文化財の保護と活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
⑲生涯スポーツの推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
⑳スポーツ施設の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48

Ⅳ　学識経験者の知見の活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成２０年４月から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。（同法第２７条第１項）

同法の規定に基づき、平成２４年度実施分の教育に関する事務の点検及び評価を行いましたので、その結果をまとめ報告いたします。

平成２５年９月

三郷町教育委員会

委員長	川崎　洋子
委員	森川　征浩
委員	鶴丸　　浩
委員	芝崎　善彦
委員(教育長)	山野　一明

Ⅰ　点検・評価の概要

１．点検・評価の目的

町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を点検及び評価を行うことで、これまで取り組んできた施策の課題等を明らかにし、効果的な教育行政の推進を図るとともに、その結果を公表することにより開かれた教育行政を推進することを目的としています。

２．点検・評価の対象

点検及び評価は、平成２４年度の実績に基づき、「町教育委員会の活動状況」及び「町教育委員会が実施する施策及び事業」を対象としています。

３．点検・評価の実施方法

①町教育委員会の活動状況については、平成２４年度の教育委員会議の開催状況や審議事項等を総括し点検しました。

②町教育委員会が実施する施策及び事業については、「三郷町第４次総合計画」の施策体系ごとに、２０の点検評価項目を設定し、それぞれの事務事業の平成２４年度の実績について、「事業評価シート」にまとめました。

③点検及び評価にあたっては、客観性を確保するため、外部の学識経験を有する方から、指導・助言を受け、報告書をまとめました。

【点検評価有識者】

氏　名	所属・役職
米川　英樹	日本学生支援機構理事(大阪教育大学名誉教授)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」～抜粋～

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２７条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ　町教育委員会の活動状況

１．教育委員

役職名	氏　名
委　員　長	川　崎　洋　子
職務代理者	森　川　征　浩
委　　員	鶴　丸　　浩
委　　員	芝　崎　善　彦
教　育　長	山　野　一　明

２．教育委員会議の開催状況

①定例会・・・１１回
②臨時会・・・　５回

３．教育委員会議の審議状況

①審議事項・・・２６件
②報告事項・・・２３件（各課別報告除く。）

※次頁以降に、平成２４年度の教育委員会の開催状況及び審議状況を記載しています。審議事項については、「議案」として、その他の報告事項については、「報告」に分類し記載しています。

４．教育委員の活動状況

①学校(園)計画訪問実施（年１回）
幼稚園１園、小学校２校、中学校１校
②学校行事への参加
入学(園)式、卒業(園)式、運動会、体育祭、文化祭等
③各種会議、行事、研修会等への参加
子どもの安全対策連絡会議、学校支援地域本部事業実行委員会、人権教育、青少年育成各種会議、各種研修・研究大会、成人式等

平成２４年度　教育委員会議の開催状況について

会　議	平成２４年　第４回定例教育委員会	開会日	平成２４年４月２６日(木)
報告	・教育委員会事務局職員の人事異動について ・教職員の人事異動について ・生駒郡教育長会について ・生駒郡地教委連絡協議会について ・各課別報告		
会　議	平成２４年　第５回定例教育委員会	開会日	平成２４年５月２４日(木)
議案	・学校評議員の委嘱について ・平成２４年度町立学校（園）計画訪問の実施日程について ・三郷町私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部改正について ・三郷町立幼稚園の保育料等徴収条例施行規則の一部改正について		
報告	・学校評議員報告について ・各課別報告		
会　議	平成２４年　第６回定例教育委員会	開会日	平成２４年６月１９日(火)
報告	・給食費の滞納状況について ・三郷町スポーツ競技全国大会等出場者奨励金交付要綱の一部改正について ・財団法人三郷町文化振興財団の経営状況について ・各課別報告		
会　議	平成２４年　第１回臨時教育委員会	開会日	平成２４年７月１３日(金)
議案	・三郷町教育委員会事務局職員の分限処分について ・三郷町心身障害児就学指導委員会への諮問について		
会　議	平成２４年　第２回臨時教育委員会	開会日	平成２４年８月８日(水)
議案	・三郷町心身障害児就学指導委員会の答申について		
会　議	平成２４年　第７回定例教育委員会	開会日	平成２４年８月１６日(木)
議案	・平成２４年度町立学校（園）運動会・体育大会の実施日程について ・平成２５年度三郷町立南畑幼稚園園児募集について ・教育に関する事務の点検及び評価報告書（平成２３年度実施分）について		
報告	・平成２４年度町立学校（園）計画訪問の日程について ・各課別報告		

会　議	平成２４年　第８回定例教育委員会	開会日	平成２４年９月２４日(月)
議案	・三郷町心身障害児就学指導委員会委員の委嘱について ・平成２５年三郷町成人式の開催について		
報告	・平成２４年第３回（９月）三郷町議会定例会について ・平成２３年度図書館の利用状況について ・公立学校のいじめの状況について ・各課別報告		
会　議	平成２４年　第３回臨時教育委員会	開会日	平成２４年１０月１日(月)
議案	・三郷町教育委員会委員長及び職務代理者の選任について		
報告	・平成２４年度全国学力・学習状況調査の結果について		
会　議	平成２４年　第９回定例教育委員会	開会日	平成２４年１０月２２日(月)
議案	・三郷町心身障害児就学指導委員会への諮問について ・三郷町学校支援地域本部事業実行委員会委員の委嘱について		
報告	・平成２５年度三郷町立南畑幼稚園の園児募集状況について ・各課別報告		
会　議	平成２４年　第１０回定例教育委員会	開会日	平成２４年１１月２７日(火)
議案	・三郷町心身障害児就学指導委員会の答申について ・三郷町立竜田運動公園の設置及び管理に関する条例の一部改正について ・三郷町立竜田運動公園管理規則の一部改正について ・三郷町スポーツセンター及び三郷町ウォーターパークの指定管理者の指定について		
報告	・平成２５年度三郷町立南畑幼稚園の抽選結果について ・各課別報告		
会　議	平成２４年　第１１回定例教育委員会	開会日	平成２４年１２月１８日(火)
報告	・学校給食材料費の滞納整理状況について ・各課別報告		
会　議	平成２５年　第１回定例教育委員会	開会日	平成２５年１月２４日(木)
議案	・平成２４年度卒業（園）式及び平成２５年度入学（園）式について		
報告	・平成２４年第４回（１２月）三郷町議会定例会について ・各課別報告		

会　議	平成２５年　第２回定例教育委員会	開会日	平成２５年２月２１日(木)
報告	・公立学校における体罰に関する実態調査について ・公立学校教職員安全衛生管理要綱について ・総合型地域スポーツクラブについて ・各課別報告		
会　議	平成２５年　第１回臨時教育委員会	開会日	平成２５年３月５日(火)
議案	・三郷町放課後児童クラブの条例の一部改正について		
会　議	平成２５年　第２回臨時教育委員会	開会日	平成２５年３月２２日(金)
議案	・三郷町教育委員会教育長の任命について ・三郷町教育委員会委員長職務代理者の選任について		
会　議	平成２５年　第３回定例教育委員会	開会日	平成２５年３月２６日(火)
議案	・学校評議員の委嘱について ・三郷町立学校教職員安全衛生管理要綱の制定について ・平成２６年三郷町成人式の開催について		
報告	・平成２５年第１回（３月）三郷町議会定例会について ・平成２５年度予算案の概要について ・平成２５年度町立学校（園）の教育課程について ・各課別報告		

Ⅲ　施策及び事業の点検・評価

１．点検・評価の項目

点検及び評価にあたっては、より効率的で実効性のあるものにするため、「三郷町第４次総合計画」を検証し、その施策体系を網羅するように、次頁の表のとおり、２０の「点検・評価項目」を設定しています。

点検及び評価の方法については、各事業の課題とその改善方法・結果について、ＰＤＣＡサイクル(※)に従って詳細に記載できるようにするとともに、成果指標と決算額を示すこととし、成果とコストを明らかにするようにしています。

また、昨年度に引き続き、それぞれの事業費について、国や県の補助事業であるものについては、そのことを明記するようにしています。

２．点検・評価結果の内容

各項目は、１．基本事項　２．事業概要・目的　３．事業実績・結果　４．点検評価・課題　５．改善方法・結果　６．今後の計画・方向性に分類しています。

【基本事項】

→施策の名称、担当課、総合計画の位置づけ及びその施策が目指す基本的な方向性を記載しています。

【事業概要・目的】

→各施策に基づいて教育委員会が実施した事業の概要とその目的を記載しています。

【事業実績・結果】

→実施した事業の実績及び結果を記載しています。数値については、平成２４年度実績です。(「◎」については、補助事業を示します。)

【点検評価・課題】

→事業実績及び結果に基づき、事業の達成度、成果及び課題を記載しています。成果については、成果指標と決算額を数値で示しています。

また、課題については、継続的な課題とともに、平成２４年度における新たな課題に分類して記載しています。

【改善方法・結果】

→継続的な課題に対する改善方法及び結果と新たな課題に対する改善方法の検討について記載しています。

【今後の計画・方向性】

→事業の今後の方向性と計画について記載しています。

※ＰＤＣＡサイクル

計画(PLAN)→実行(DO)→点検(CHECK)→見直し(ACTION)の流れを次の計画に活かすことで、継続的な改善を図るプロセス。

【総合計画の体系】

第1章　いきいきと笑顔で暮らせるまちをつくろう
　第1節　子育て支援の充実
　　4．親と子の学びと成長への支援
　第2節　学校教育の充実
　　1．学校施設の整備
　　2．教職員の資質向上
　　3．情報化・国際化に対応した教育環境の整備
　　4．学校給食体制の整備
　　5．「いじめ」や不登校児童・生徒に対する対策の充実
　　6．学校や登下校時の安全確保
　　7．地域とともにつくる豊かな学校教育
　　8．子どもの非行防止
　第3節　生涯学習・文化活動の振興
　　1．生涯学習推進体制の充実
　　2．文化センターの充実
　　3．文化活動団体への支援
　　4．図書館の充実
　第4節　生涯スポーツと健康づくりの振興
　　1．自主的なクラブ・サークルやスポーツ団体の育成
　　2．青少年スポーツ活動の振興
　　3．総合型地域スポーツクラブの育成
　　4．障害者のスポーツ活動の充実
　　5．総合スポーツ施設の整備
　　6．身近な健康づくりの場づくり
　第5節　障害者の自立支援
　　1．教育・育成支援の充実

第2章　みどり豊かな美しいまちをつくろう
　第1節　自然環境の保全
　　3．環境学習の推進
　第4節　歴史的環境の保全
　　1．文化財の保護と活用
　　2．民間団体による調査や歴史にふれる機会づくり
　　3．歴史的資料の発掘と保全・管理

第4章　みんなで協働するまちをつくろう
　第1節　人権の尊重
　　1．人権尊重の啓発

【総合計画の体系】

教育施設の整備

教職員研修の充実

特別支援教育の推進

情報化・国際化に対応した教育環境の整備

いじめ・不登校児童生徒の対策

学校・家庭・地域の連携による学校づくり

安全・安心の学校づくり

魅力ある幼稚園づくり

放課後児童クラブの充実

生涯学習の推進

青少年の健全育成

人権教育・啓発の推進

文化活動の充実

図書館の充実

文化財の保護と活用

生涯スポーツの推進

スポーツ施設の整備

三郷町第４次総合計画との対応関係

【総合計画の施策方針】

第１章　いきいきと笑顔で暮らせるまちをつくろう

第１節　子育て支援の充実

④親と子の学びと成長への支援　→⑪

第２節　学校教育の充実

①学校施設の整備　→①
②教職員の資質の向上　→②
③情報化・国際化に対応した教育環境の整備　→⑤
④学校給食体制の整備　→⑨
⑤「いじめ」や不登校児童・生徒に対する対策の充実　→⑥
⑥学校や登下校時の安全確保　→⑧
⑦地域とともにつくる豊かな学校教育　→⑦
⑧子どもの非行防止　→⑬

第３節　生涯学習・文化活動の振興

①生涯学習推進体制の充実　→⑫
②文化センターの充実　→⑮
③文化活動団体への支援　→⑯
④図書館の充実　→⑰

第４節　生涯スポーツと健康づくりの振興

①自主的なクラブ・サークルやスポーツ団体の育成　→⑲
②青少年スポーツ活動の振興　→⑲
③総合型地域スポーツクラブの育成　→⑲
④障害者のスポーツ活動の充実　→⑳
⑤総合スポーツ施設の整備　→⑳

第６節　障害者の自立支援

③教育・育成支援の充実　→④

第２章　みどり豊かな美しいまちをつくろう

第４節　歴史的環境の保全

①文化財の保護と活用　→⑱
②民間団体による調査や歴史にふれる機会づくり　→⑱
③歴史的資料の発掘と保全・管理　→⑱

第４章　みんなで協働するまちをつくろう

第１節　人権の尊重

①人権尊重の啓発　→⑭
②相談の充実　→⑭

【点検・評価項目】

①学校施設の整備　←1．2-①
②教職員研修の充実　←1．2-②
③就園・就学の支援
④特別支援教育の推進　←1．6-③
⑤情報・国際教育の推進　←1．2-③
⑥いじめ・不登校の対策　←1．2-⑤
⑦地域の教育力の向上　←1．2-⑦
⑧安全・安心の学校づくり　←1．2-⑥
⑨学校給食体制の整備　←1．2-④
⑩幼児教育の充実
⑪放課後児童クラブの充実　←1．1-④
⑫生涯学習の推進　←1．3-①
⑬青少年の健全育成　←1．2-⑧
⑭人権教育・啓発の推進　←4．1-①②
⑮文化センターの充実　←1．3-②
⑯文化活動への支援　←1．3-③
⑰図書館の充実　←1．3-④
⑱文化財の保護と活用　←2．4-①②③
⑲生涯スポーツの推進　←1．4-①②③
⑳スポーツ施設の整備　←1．4-④⑤

1．→は、総合計画の施策方針と評価項目の対応関係を示す。
2．←は、点検・評価項目と総合計画の施策方針の対応関係を示す。
凡例：1．1-①＝第1章・第1節の①

平成２４年度主要事業と進捗状況

【評価項目】	【主要事業及び進捗状況】 ※上段は主要事業の内容、下段は年度計画事業や平成２４年度重点項目。
①学校施設の整備	・学校、幼稚園の改修・整備工事 ①三郷北小学校児童用机・椅子入替事業（計画的購入完了）②耐震化率：100%
②教職員研修の充実	・小中学校、幼稚園の教職員研修、県実施研修への参加
③就園・就学の支援	・小中学校就学援助、幼稚園就園奨励 ①高校入学支度金の廃止（平成２３年度から廃止）
④特別支援教育の推進	・特別支援教育の推進、教育相談、特別支援教育就学奨励 ①特別支援担当者連絡会の充実
⑤情報・国際教育の推進	・校内ＬＡＮ・教育用コンピュータの整備、ＡＬＴ（外国語指導助手）の派遣 ①新学習指導要領によるＡＬＴ派遣授業数の拡大（平成２３年度完全実施）
⑥いじめ・不登校の対策	・スクールカウンセラー活用、心の相談員、メンタルヘルス相談 ①不登校問題の対策検討
⑦地域の教育力の向上	・子ども人権学習支援事業、学校支援地域本部事業 ①学校支援地域本部事業（平成２３年度から県補助事業として実施）
⑧安全・安心の学校づくり	・子ども情報ネットさんごう、さんごう子ども見まもり隊、青色防犯パトロール ①通学路危険箇所の検討及び対策
⑨学校給食体制の整備	・安全安心の学校給食、食育の推進、給食センターの建替 ①地産地消の推進②給食センター建替事業（平成２５年度再検討）
⑩幼児教育の充実	・地域に開かれた幼稚園、子育て支援 ①多目的ホール空調設置
⑪放課後児童クラブの充実	・放課後児童クラブの運営 ①学校長期休業中の開所時間の見直し
⑫生涯学習の推進	・学習基盤の整備、各種学級の運営
⑬青少年の健全育成	・青少年育成三郷町民会議、親子のつどい、教育講演会、成人式
⑭人権教育・啓発の推進	・識字学級、人権教育地区別懇談会、人権問題学習セミナー、人権相談
⑮文化センターの充実	・公開講座・文化教室、グループ活動の支援、指定管理 ①指定管理者の指定（平成２４年度から３年間）
⑯文化活動への支援	・生涯学習の指導者等の活用支援、各種団体への助成 ①町民文化祭、芸術祭の開催
⑰図書館の充実	・情報資料の提供、子ども読書の推進、生涯学習事業の推進
⑱文化財の保護と活用	・文化財の保護、文化財の啓発・活用、地域の歴史学習の機会の提供 ①文化財講演会の実施
⑲生涯スポーツの推進	・スポーツの推進、軽スポーツ事業 ①総合型地域スポーツクラブの設立準備委員会設置
⑳スポーツ施設の整備	・スポーツ施設の整備、指定管理 ①多目的広場開場②指定管理（平成２２年度からウォーターパークに加えスポーツセンターも指定）

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	①学校施設の整備	担当課名	教育総務課	総合計画位置づけ	第1章･第2節の①
基本方向	・学校施設の耐震性を確保します。 ・誰もが利用しやすい環境とするため、施設の整備を行います。				

2　事業概要･目的（PLAN）

事業概要･目的	・学校施設は、幼児・児童・生徒が１日の大半を過ごす学習・生活の場であり、「生きる力」をはぐくむための教育環境として重要な意義を持つだけでなく、地震などの災害発生時に地域住民の応急避難場所としての役割をも果たすことから、その安全性を確保する。 ・施設の耐震化のみでなく、天井・窓などの非構造部材の耐震性についても安全性を確保する。 ・第２次ベビーブーム時代に建設した学校施設の老朽化が深刻である状況に伴い、再生整備（改修）を優先順位をつけて実施する。 ・教育環境の充実を図るため、老朽化している児童・生徒用机・椅子を計画的に入れ替える。

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果

○学校施設の耐震化の状況
※対象：非木造２階建以上、又は延べ床面積２００㎡以上
・耐震化対象棟数：２０棟（南畑幼稚園１、三郷小学校６、三郷北小学校５、三郷中学校８）
・耐震化率：１００％

○各学校・園の施設整備状況（主な補修工事等、事業費200,000円以上）

【三郷小学校】

工事名称	事業費(円)
体育館雨漏り復旧工事	559,345
防火扉改修工事	339,465
給水加圧ポンプユニット修繕	315,000
階段手摺取替工事	288,000
ボランティア控室空調取付工事	386,400
その他補修･修繕工事	951,380
合　　計	2,839,590

【三郷北小学校】

工事名称	事業費(円)
防火シャッター改修工事	4,053,000
電気設備不良箇所改修工事	454,650
総合室・音楽室空調工事	1,669,500
児童用トイレブース取替工事	735,000
音楽室床改修工事	375,000
その他補修･修繕工事	1,132,989
合　　計	8,420,139

【三郷中学校】

工事名称	事業費(円)
防火扉改修工事	556,185
昇降口外壁改修工事	231,000
玄関土間タイル張替工事	262,500
黒板・体育館ボード貼替工事	541,800
剣道場・理科室床改修工事	1,491,000
被服室電源回路増設工事	336,000
教室鍵・窓ｶﾞﾗｽｸﾚｾﾝﾄ取替工事	294,000
その他補修･修繕工事	3,238,050
合　　計	6,950,535

【南畑幼稚園】

工事名称	事業費(円)
灯油庫取替工事	345,000
滑り台・砂場改修工事	888,300
多目的ホール空調取付工事	1,617,000
その他補修･修繕工事	707,164
合　　計	3,557,464

○公立学校非構造部材耐震事業

工事名称	事業費(円)
非構造部材耐震点検調査業務委託	483,000

○各学校児童・生徒用机及び椅子入替事業

学校名	購入台数	事業費(円)
三郷小学校	0　台	0
三郷北小学校	150　台	1,341,900
三郷中学校	30　台	469,350
合　計	180　台	1,811,250

※三郷北小学校は、平成19年度から平成24年度まで計画的に購入。
　また、平成25年度に学級が増えるため30台購入。
※三郷中学校は、平成25年度に学級が増えるため30台購入。

4 点検評価･課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ・学校施設の耐震化率については、100%を達成している。【成果指標①】 ・各施設において、緊急かつ優先的に必要な改修・補修を実施したが、老朽化・経年劣化により、今後さらに改修・補修が必要である。 ・平成24年度においても、改修・補修に要した経費に対する財源の確保を行い、前年度に引き続き全体の工事費の拡充を図った。【成果指標②】 ・三郷中学校において、平成21年度からの年次計画による老朽化した生徒用机・椅子の入替事業が平成23年度で完了した。また、三郷北小学校も平成24年度で完了したことで、全体的な入替が完了した。 なお、三郷小学校は計画的入替ではなく、随時入替している。【成果指標③】

	事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)
②成果指標	①学校施設耐震化状況（対象施設）	耐震化率	%	100	100	H23 - / H24 -
	②各学校、園改修･補修工事	補修・改修件数	件	105	118	H23 18,437,864 / H24 21,767,728
	③児童生徒用机･椅子入替事業	入替済学年数	学年	8	9	H23 4,685,415 / H24 1,811,250
						H23 / H24
						H23 / H24

③事業の課題	【継続的な課題】 ・老朽化・経年劣化による改修・補修が必要な施設があり、随時対応していくこと。特に、三郷中学校については老朽化が進んでおり、保護者からも施設整備の要望が多い。財源の確保に努めながら、随時補修・改修を進める。 ・今後、三郷北小学校では児童数の増加が見込まれ、クラス数が増えることも考えられる。現在の放課後児童クラブが使用している教室も含めて、教室の配置の見直しを考える必要がある。 【新たな課題】 ・昨年度の課題であった非構造部材の対策として各学校の非構造部材の耐震診断を行った。しかしその結果、三郷小学校の体育館天井及び三郷中学校の体育館窓ガラス等に支障があることが判明した。早急に改修の必要がある。

5 改善方法･結果(ACTION)

課題の改善方法･結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ・改修・補修がこれまで以上に必要になってくることが見込まれるため、財政状況を勘案しながら、必要な整備を進める。三郷中学校については、抜本的な見直しも検討する。 ・平成25年度の学級編成については、1教室を改修することで対応した。今後においても、学級が増えることを考慮して放課後児童クラブの教室を移設するなど、教室の配置を考えていく。 【新たな課題に対する改善方法の検討】 ・早急に改修の必要があるが、財源の確保及び実施時期などを考慮しながら、改修にむけて取り組む。

6 今後の計画･方向性(PLAN)

事業の計画･今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☑ 見直し	(内容) ☑ 予算拡充 ☐ 予算削減 ☑ 事業拡大 ☐ 事業縮小 ☐ 手法見直し ☐ 休止･廃止
	・今後も、財政状況を勘案しつつ緊急性・優先性を鑑み、必要な整備を進める。 ・平成25年度は、三郷小学校では遊具の改修工事、体育館前スペースのチップ化舗装工事、三郷北小学校では遊具の改修工事、公共下水道接続工事、三郷中学校では普通教室と廊下の間仕切り改修工事、校舎教育放送機器購入、また、非構造部材の耐震化にむけての実施設計業務委託も実施する。	

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	②教職員研修の充実	担当課名	教育総務課 (南畑幼稚園)	総合計画位置づけ	第1章･第2節の②
基本方向	・子どもたちが健やかに成長できるよう、また、きめ細やかな指導で学力の向上を図るよう、県などの関係機関との連携協力により研修を実施し、教職員の資質向上に努めます。				

2　事業概要･目的(PLAN)

事業概要･目的	○小中学校 ・初任者の教諭に対し、１年間の研修を実施して実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得させる。県の研修に加え、町においても年２回研修を（生駒郡地教委主催で）実施する。 ・発達障害等の特別な教育的支援を必要とする幼児・児童・生徒に対する総合的な支援体制の充実を図るため、生駒市と生駒郡が合同で研修会を実施する。 ○幼稚園 ・生駒郡幼稚園教育研究会及び奈良県幼稚園教育研究協議会において、幼児一人ひとりへのきめ細やかな対応を学び、保育内容の充実を図るため各種研修会を行う。 ・幼稚園教員研修及び特別支援教育研修を随時行い、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図り、幼小連携をより充実させるとともに教員の資質向上を図る。 ・幼児期教育と小学校教育との円滑な接続を図り、幼小連携をより充実させるための研修会を行う。 ◎県実施研修への参加【県費】 ・奈良県が実施する各種教職員研修に積極的な参加を促す。

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果	○小中学校 【初任者研修】 ・研修対象者　５人 ①第１回生駒郡地教委主催初任者研修 内容　フィールドワークや体験活動等をとおして、三郷町の歴史と文化を学び教育活動に生かすとともに、互いの交流を深める。 ②第２回生駒郡地教委主催初任者研修 内容　指導力及び授業力の向上をめざして、グループ討議、資料づくり、プレゼンテーションなどの手法による研修を深めることにより、教員としての資質を高める。 【特別支援教育研修会】 期日　平成２４年８月２２日(水) 場所　生駒市たけまるホール 内容　発達障害のある子どもの理解と支援についての講演会を実施。 参加人数：三郷町から２０人（全体で５０１人） ○幼稚園 【生駒郡幼稚園教育研究会・奈良県幼稚園教育研究協議会】 内容　全体研修（講演）、各種部会研修（実践事例による研究協議）、特別支援コーディネーター研修 ※６月に公開保育を実施。 回数　全体研修：年間５回 部会研修：（教育課程部会）年間５回（放送教育部会）年間５回 特別支援コーディネーター研修：年間２回 【幼稚園教員研修】 ①園内及び新任研修 内容　外部講師による保育内容の点検及び指導 回数　年間９回 ②職員研修 内容　毎週水曜日の保育終了後、職員研修を実施し、幼小連携や保育内容等の役割の共通理解に努めた。 回数　年間を通じておおよそ週１回 ◎県実施研修への参加（県費） ・初任者研修への参加 参加人数：５人 ・教職経験に応じたステージ別研修や職務や今日的課題等に対応した研修への参加 参加人数：２６人（幼稚園５人、三小１３人、北小７人、三中１人）

4　点検評価･課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○小中学校 ・生駒郡地教委主催の初任者研修については、授業展開や学級経営の仕方、生徒との接し方等の実践的なものであり、学校内の諸活動が活性化された。【成果指標①】 ※アンケート結果：勤務校の町内や周辺について調べてみることで知らないことがたくさんあることが分かった。今回の研修でやっと子どもたちと同じステージに上がれたのではないかと思う。地域を知ることは子どもたちを知ることつながるはずなので、この研修で学んだことを２学期からの子どもたちとのコミュニケーションに生かしたい、といった初任者研修参加者の感想や意見があった。 ・特別支援教育研修会：三郷町からの参加者は昨年度から９人減となったが、これは職員会議のため三郷小学校から参加できなかったため。【成果指標②】 ・ステージ別研修：幼小中全教職員数１２４人中、約２１％の教職員２６人が受講し、講座数は延べ４９講座であった。【成果指標④】 ○幼稚園 ・生駒郡幼稚園教育研究会、奈良県幼稚園教育研究協議会では、各市町村の情報交換、実践交流の場となり、研究協議の中から取り組みの反省と評価ができた。【成果指標③】 ・幼稚園教員、特別支援教育研修では、講師の講評の中から幼小連携や保育内容について、改善するポイントを見出すことができた。また、特別支援を必要とする幼児の対応について、療育との連携により、職員間で学び合い共通理解を深めることができた。 ○教員研修における人権教育について ・教員自身の人権感覚・意識を高めるとともに、子ども達一人ひとりを大切にする教育活動に役立てた。また、その他関係機関･団体の各種研修会にも参加した。

②成果指標

事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)
①初任者研修	研修回数（町実施）	回	2	2	H23 - H24 -
②特別支援教育研修会	参加人数	人	29	20	H23 - H24 -
③生駒郡幼稚園教育研究会・奈良県幼稚園教育研究協議会	研修回数	回	7	17	H23 - H24 -
④ステージ別研修	参加人数	人	50	26	H23 - H24 -
					H23 H24

③事業の課題	[継続的な課題] ・幼稚園については、限られたスタッフ人員で、より質の高い保育・教育内容の充実が求められる。 ・幼小連携については、幼稚園と小学校の校種の違いによる教育内容や指導方法等、幼児が小学校生活の変化に対応できるよう教員に適切な指導が求められる。 [新たな課題]

5　改善方法･結果(ACTION)

課題の改善方法･結果	[継続的な課題に対する改善方法及び結果] ・幼稚園については、今後も教員間の情報共有を図りつつ、自己研鑽を積み重ねることが重要である。 ・幼小連携については、幼稚園教育と小学校教育との滑らかな接続を図るため、教員相互の情報交換が重要である。 [新たな課題に対する改善方法の検討]

6　今後の計画･方向性(PLAN)

事業の計画･今後の方向性	☑ 現状維持 ☐ 見直し	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可) (内容)　☐ 予算拡充　☐ 予算削減　☐ 事業拡大　☐ 事業縮小　☐ 手法見直し　☐ 休止･廃止
	・今後も研修内容を精査しながら、教職員の資質向上を図る。	

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	③就園･就学の支援	担当課名	教育総務課	総合計画位置づけ	計画なし
基本方向	・経済的理由により、教育の機会均等が損なわれることがないよう、各種補助事業を実施し、保護者の経済的負担の軽減を図ります。				

2　事業概要･目的(PLAN)

事業概要･目的

◎小中学校就学援助【国庫補助事業】
・経済的な理由等によって、子どもたちの就学が妨げられることのないよう、学用品費や学校給食費などを援助する。
◎幼稚園就園奨励【国庫補助事業】
・保護者負担の軽減及び公立・私立幼稚園間の保護者負担の格差是正を図るとともに、幼稚園教育の普及充実を図るため、町立幼稚園の保育料の減免及び私立幼稚園への就園奨励費補助金の交付を行う。

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果

◎小中学校就学援助【国庫補助】

【要保護児童生徒就学援助費】

学校名	認定者（人）	就学援助費（円）
三郷小学校	13	144,024
三郷北小学校	1	0
三郷中学校	7	120,000
合計	21	264,024

※修学旅行費のみ

【要保護児童生徒就学援助費国庫補助金】

補助金額（円）
132,000

※三郷小学校　72,000円
三郷中学校　60,000円

【準要保護児童生徒就学援助費】

学校名	認定者（人）	就学援助費（円）	給食費（円）	援助費合計（円）
三郷小学校	84	1,710,521	3,264,300	4,974,821
三郷北小学校	40	855,067	1,700,400	2,555,467
三郷中学校	74	3,765,701	3,300,500	7,066,201
国公立中学校	1	79,520	0	79,520
合計	199	6,410,809	8,265,200	14,676,009

◎幼稚園就園奨励【国庫補助】
・町内に在住し、私立幼稚園に就園する３歳児から５歳児の保護者を対象に、所得に応じて補助金を交付。

【私立幼稚園就園奨励費補助金】

園児区分	受給者（人）	就園奨励費（円）
3歳児	61	6,222,900
4歳児	50	4,385,400
5歳児	78	7,571,300
合計	189	18,179,600

【幼稚園就園奨励費補助金】

補助金額（円）
4,368,000

・町立幼稚園の保育料を負担することが困難な保護者に対して、減免措置を行った。

【町立幼稚園保育料の減免】

園児区分	減免者数(人)	減免額（円）
3歳児	1	8,000
4歳児	0	0
5歳児	0	0
合計	1	8,000

4　点検評価･課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ・就学援助は、ほぼ前年度並みに小中学校合わせて220名を認定し、援助を必要とする保護者の経済的負担を軽減できた。【成果指標①】 ・認定率については、前年度の13.3%から12.7%へと推移している。【成果指標②】 ・幼稚園就園奨励費については、人数は前年度と比べて9人増加で、約130万の増額となり、保護者の経済的負担を軽減できた。【成果指標③】

	事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)
②成果指標	①小中学校就学援助	認定者数	人	239	220	H23 17,649,232 H24 14,940,033
		認定率	%	13.3	12.7	H23 17,649,232 H24 14,940,033
	②幼稚園就園援助	受給者及び減免者数	人	181	190	H23 16,833,300 H24 18,179,600
						H23 H24
						H23 H24

③事業の課題	【継続的な課題】 ・就学援助申請書について、教育委員会が住民基本台帳情報を確認することに同意を得るための一文を入れてあることから、添付書類（所得証明書等）の簡素化についても検討する必要がある。また、就園奨励申請書についても併せて検討する必要がある。 【新たな課題】

5　改善方法･結果(ACTION)

課題の改善方法･結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ・所得証明等の関係書類の添付を不要とする場合、通知文書や手順等も変更する必要があるが、平成２５年度より添付を不要とする方向で検討する。 【新たな課題に対する改善方法の検討】

6　今後の計画･方向性(PLAN)

事業の計画･今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☑ 見直し	(内容)　☐ 予算拡充　☐ 予算削減　☐ 事業拡大　☐ 事業縮小　☑ 手法見直し　☐ 休止･廃止
	・今後の申請方法について、学校・幼稚園とも協議しながら検討していく。	

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	④特別支援教育の推進	担当課名	教育総務課	総合計画位置づけ	第1章･第6節の③
基本方向	・学校教育において、特別に支援を要する幼児・児童・生徒について、誰もがともに学べる「なかまづくり」の教育と体制の整備を進めます。				

2　事業概要･目的(PLAN)

事業概要･目的	○特別支援教育の推進 ・幼児・児童・生徒一人ひとりの教育ニーズを把握し、その持っている力を高め、生活や学習上の課題を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う特別支援教育を推進する。 ○教育相談 ・就学前の幼児を持つ保護者に対し、障がい等の状況に応じた適切な教育が受けられるよう教育相談を行う。 ○特別支援教育担当者連絡会 ・小中学校の連携を目的に、情報交換や就学指導のあり方を検討するため、定期的に担当者連絡会を開催。 ◎特別支援教育就学奨励費【国庫補助】 ・特別支援学級在籍児童・生徒の保護者に対し、その経済的負担の軽減を図るため、世帯の収入額が一定額以下である場合、学用品費や学校給食費などの一部を援助する。

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果	○特別支援教育の推進 ・特別支援を必要とする幼児・児童・生徒を支援するため、町費による臨時講師等（常勤・非常勤）を各学校 に配置した。 【配置講師数】 南畑幼稚園　４人 三郷小学校　４人 三郷北小学校　３人 三郷中学校　２人 合計　１３人 ※正規職員(三郷北小学校１人、三郷中学校２人)を除く。 ○教育相談 ・平成２４年７月に就学前の幼児を持つ保護者を対象として、斑鳩町中央公民館において生駒郡合同の教育相談会を行った。 【相談人数】 三郷小学校区　７人 三郷北小学校区　５人 合計　１２人 ○特別支援教育担当者連絡会 ・特別支援教育の充実をはかるため、情報交換と小中学校の連携を図る場として、平成２１年度から小中学校の特別支援担当教員及び教育委員会事務局担当者による連絡会議を立ち上げ、平成２４年度においても定期的に連絡会を開催した。（年間６回） ◎特別支援教育就学奨励費【国庫補助】 【就学奨励費認定者数】 三郷小学校　１８人 三郷北小学校　１６人 三郷中学校　６人 合計　４０人 ※平成２４年度決算額：１，４０３，２１８円（補助額４６２，０００円） （内訳）三郷小学校　５７７，１０３円 三郷北小学校　５２４，９７５円 三郷中学校　３０１，１４０円

4　点検評価･課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ・特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒が年々増加しているため、県の配置基準に加えて、町費による講師を各学校に配置している。平成２４年度は常勤講師を１人増員し、昨年度より１人増の１３人を配置した。【成果指標①】 ・就学前の相談では、保護者の就学に対する不安を解消するため、事務局と特別支援担当の教員が相談を行うことにより、園での生活の仕方や専門機関への斡旋等、幼児の現状に応じたアドバイスができた。平成２４年度も昨年度並みの相談件数があり、保護者のニーズは高いと考えられる。【成果指標②】 ・特別支援担当者連絡会議は、年間６回開催し、小中学校間の情報交換との連携を図った。【成果指標③】 ・特別支援教育就学奨励費では、昨年度から受給者で４人、決算額で約１２万円の減となったが、特別支援学級に在籍する保護者の経済的負担を軽減できているものと考える。【成果指標④】

②成果指標

事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)
①特別支援教育の推進	配置講師数	人	12	13	H23 30,365,162 H24 33,055,665
②教育相談	相談人数	人	11	12	H23 - H24 -
③特別支援教育担当者連絡会	開催回数	回	6	6	H23 - H24 -
④特別支援教育就学奨励費	就学奨励費認定者数	人	44	40	H23 1,524,156 H24 1,403,218
					H23 H24

③事業の課題	【継続的な課題】 ①特別支援教育を推進するにあたり、特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒は、年々増加する傾向にあることから、人員配置を含め、今後も支援体制を強化する必要がある。 ②特別支援担当者連絡会については、今後、幼稚園・保育園や保健センターなどとも連携し、子どもの誕生から成長を見まもり、適切な支援を行う必要がある。 【新たな課題】

5　改善方法･結果(ACTION)

課題の改善方法･結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①特別に支援が必要な幼児・児童・生徒の増加に伴い、常勤講師を増員した。 ②昨年度に引き続き、公立・私立の幼稚園・保育園にも担当者連絡会への参加を呼びかけた。 【新たな課題に対する改善方法の検討】

6　今後の計画･方向性(ＰＬＡＮ)

事業の計画･今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☑ 見直し	(内容) ☑ 予算拡充　☐ 予算削減　☐ 事業拡大　☐ 事業縮小　☑ 手法見直し　☐ 休止･廃止
	・増加する特別な支援が必要な発達障害の幼児・児童・生徒に対して、障がいの程度によっては、普通学級の中で適切な支援ができるよう講師の配置に努める。 ・乳幼児を含めて子どもたちや保護者等の実態や状況の変化に対応し、総合的なサポート体制を確立する。	

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	⑤情報･国際教育の推進	担当課名	教育総務課	総合計画位置づけ	第1章･第2節の③
基本方向	・校内におけるＬＡＮの整備を進めるとともに、教育用コンピュータの充実に努めます。 ・生きた外国語の学習や異文化への理解を養うため、ＡＬＴ制度の充実を図ります。				

2　事業概要･目的(PLAN)

事業概要･目的

○校内LAN・教育用コンピュータの整備
・小学校については平成19年度に、中学校については平成21年度に整備した教育用コンピュータ及び校内LANを活用し、積極的に情報教育を推進する。

○ALT派遣
・生きた外国語の学習や異文化への理解を養うため、各小中学校へALTの派遣を行う。
・南畑幼稚園においても、幼児期からの国際理解や英語教育を図るため、ALTとの交流会を行う。

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果

○教育用コンピュータ等の設置状況

種　　類	設　置　台　数　（台）			
	三郷小学校	三郷北小学校	三郷中学校	合計
サーバ	1	1	2	4
クライアントPC（デスクトップ）	20	15	42	77
クライアントPC（ノート）	1	6	6	13
プリンタ	10	10	7	27
プロジェクタ	1	1	3	5

	三 郷 小 学 校	三 郷 北 小 学 校	三 郷 中 学 校
整備年度	平成19年度	平成19年度	平成21年度
設置場所	南館2階パソコンルーム	北館2階コンピュータ教室	B棟4階コンピュータ室
LAN※整備	各教室	各教室	61室(普通教室・特別教室)

※LAN: Local Area Networkの略語。特定の場所や同一組織内での情報通信ネットワーク。

○ALT※派遣
・年間を通じて三郷中学校に1名、各小学校及び幼稚園に1名の計2名のALTの派遣を行い、英語学習・異文化理解等の活動を行った。活動時間等は下表のとおり。

	対象	クラス数<A>	年間時間数(時間)<B>	合計時間数(時間)<A>×<B>
三郷中学校	1年生	5	35	560
	2年生	6	35	
	3年生	5	35	
三郷小学校	5年生	4	35	280
	6年生	4	35	
三郷北小学校	5年生	3	35	210
	6年生	3	35	
南畑幼稚園	年 長	1	8	8
合　　計		31	253	1,058

※ALT: Assistant of Language Teacherの略語。学校で外国語授業の補助を行う外国語指導助手。

4　点検評価･課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○教育コンピュータの設置状況 ・平成19年度から平成21年度までの整備期間で、パソコン90台、周辺機器36台を新規設置し、町内すべての学校で情報教育の充実を図るための環境が整った。 ○ALT派遣 ・平成23年度より、新学習指導要領が完全実施され、小学校5・6年生の外国語活動が必須となったことから、小学校において各クラス年間35時間（授業コマ数）の派遣時間を引き続き確保。 ・平成23年度より中学校で1名、幼稚園・小学校で1名の合計2名体制へと変更し、全校の年間合計授業時間においては、前年度とほぼ同様の1,058時間となったが、ALT派遣に係る経費を確保することができた。 【成果指標②】

②成果指標

事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)
①教育用コンピュータの整備	新PC設置済み台数 小中学校合計	台	90	90	H23 - H24 -
②ALT派遣	ALTによる授業時間 幼稚園・小中学校合計	時間	1,060	1,058	H23 7,460,250 H24 7,460,250
					H23 H24
					H23 H24
					H23 H24

③事業の課題	【継続的な課題】 ・発達段階における子どもにとって、英語の興味を引くような適切な授業を行えるALTの派遣を継続して行う必要がある。また、派遣されるALTによって授業の理解度などに格差が生じないよう継続的に検討を行う。 ・平成23年度より、ALTの増員に伴い小学校・中学校において、それぞれ別のALTを派遣する体制を講じたが、その事によって小学校・中学校のALTの授業の質に格差が生じる事となった。 【新たな課題】 ・小学校の教育用コンピューターについては、平成19年度設置以降6年が経過している。さらなる情報教育の充実を図るためにも、入替を検討する必要がある。

5　改善方法･結果(ACTION)

課題の改善方法･結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ・派遣業者に対し、派遣されるALTへの社員教育・研修の徹底を求め、健全な講師の派遣を要望した結果、平成25年度は新たな講師を派遣する方向となった。 【新たな課題に対する改善方法の検討】 ・三郷小学校、三郷北小学校、三郷中学校のコンピューターについて、財政状況を勘案しながら計画的に入れ替えることを検討する。

6　今後の計画･方向性(PLAN)

事業の計画･今後の方向性	☐ 現状維持 ☑ 見直し	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可) (内容)　☑ 予算拡充　☐ 予算削減　☐ 事業拡大　☐ 事業縮小　☐ 手法見直し　☐ 休止･廃止
	・情報教育については整備済みの校内LAN・パソコン環境を再度見直し、情報教育を推進するための環境を整える。 ・今後も財政状況を勘案しながら派遣回数の検討を加える。また、児童・生徒が英語に興味を持つような指導を行えるALTの派遣を常に意識して事業を進めていく。	

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	⑥いじめ･不登校の対策	担当課名	教育総務課	総合計画位置づけ	第1章･第2節の⑤
基本方向	・小中学生を対象とした専門医によるメンタルヘルス相談や、中学校への心の相談員の配置による「いじめ」や不登校児童生徒の早期発見・早期指導の実施を継続します。 ・教職員経験者など地域の人材の参加を得ながら、多様な教育の展開ができるよう、広域的な連携を含めた支援のあり方を検討します。				

2　事業概要･目的(PLAN)

事業概要･目的	いじめ・不登校対策として、奈良県が実施するスクールカウンセラー活用事業を活用しながら、町独自で心の相談員を配置するとともに、専門機関にメンタルヘルス相談業務を委託し、児童生徒の悩みに対して、適切かつ迅速に対応し、児童生徒が安心して学習に取組むことができるよう相談体制の充実を図る。 ◎スクールカウンセラー活用事業【県費】 いじめや不登校などの対策として、学校におけるカウンセリング機能を強化するため、臨床心理士などの資格を持ったスクールカウンセラーを中学校に配置する。 ○心の相談員 生徒の悩み、不安、ストレスに対し、気軽にカウンセリングできる心の相談員を中学校に配置する。 ○メンタルヘルス相談業務委託 小中学生とその関係者のメンタル面での相談業務を専門機関に委託し、健全な心身の保持増進に努める。

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果	◎スクールカウンセラー活用事業【県費】 ・三郷中学校へ１人配置 年間勤務日数　１８日 相談ケース数　①児童生徒：２２回 ②保護者　：　１回 ③教職員　：４７回 合　計　：７０回 主な相談内容　発達障害（の疑い）、学校生活、不登校問題など ※児童生徒へのカウンセリングのほか、教職員などへの助言も行った。 ※その他、全校生徒を対象にストレスチェックのアンケートを実施。 ○心の相談員 ・三郷中学校へ１人配置 年間勤務日数　９６日 相談ケース数　１４６回 主な相談内容　本人に関わる問題、友人問題、学校生活など ○メンタルヘルス相談 ・児童生徒や保護者、教職員の相談に対応するため、ハートランドしぎさんに委託し、専門機関による相談を行った。 相談ケース数　①児童生徒：２８回 ②保護者　：２３回 ③教職員　：　１回 合　計　：５２回　※延べ回数で計上。 ○不登校を語る保護者の集い ・平成２４年度は３回実施。天理大学大学院教授から、保護者に様々な助言がなされた。 主な内容　・子どもが登校に向けてエネルギーをためていることをまわりの大人が理解し、待つということが大切。 ・保護者の悩みを誰かに聞いてもらうことで、子どもに良い影響を及ぼす。 参加人数　１９人　※延べ人数

4　点検評価･課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ・平成２４年度の不登校児童生徒数は、対前年比１５人増の４３人であった。 (不登校：年間３０日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの) ・いじめや不登校、その他生徒の抱える問題が多様化してきた中で、三郷中学校では、 ①専門的なカウンセリングができるスクールカウンセラーの配置【成果指標①】 ②生徒の悩みを気軽に相談できる心の相談員の配置【成果指標②】 ③専門機関での相談を行うためのメンタルヘルス相談業務の委託【成果指標③】 を実施し、生徒の状況に応じた相談を行った。 ・中学校では、全校生徒を対象に「こころとからだの健康チェック」を年２回実施。その結果をカウンセラーが分析し、教育相談部で共通理解した上で各学年の教員に伝え、ストレス度の高い生徒に関して、担任や教育相談部から声をかけることでカウンセリングにつなげることができ、生徒の間でも相談室が「いつ話をしにいってもいい場所」としての認識が広まっている。 ・小学校においては、児童の悩み等を教員が親身になって相談に乗り、必要に応じてメンタルヘルス相談を紹介し、専門機関での相談へと引き継ぐ体制をとっている。また、急を要する場合には、児童の心理面での不安定さを改善させるため、中学校に配置している心の相談員を小学校へ派遣し早期解決につなげた。 ・スクールカウンセラーや心の相談員の相談回数が増加しているのは、気軽に相談できる雰囲気が作られ、早期段階での生徒の悩み等解消に向けた教員と相談員との連携が取れたため。保護者からの相談に対しても、カウンセラー等に相談しやすい状況が作られたことで、教員が余裕をもって関わることができた。 ・メンタルヘルス相談回数は、対前年度比24回増の５２回であった。増加の主な要因として児童生徒からの相談回数が２０回増えたことが挙げられる。 ・心の相談員報酬の決算額は、昨年度より４６，５３５円の増加となった。 ・不登校を語る保護者の集いでは、不安定な心の状態にある保護者に安心を与える助言を専門家から得られたことや、参加者同士の共感や心のつながりが芽生えている。 今後は、保護者同士でも集まれる機会をもてるように支援をしていく。

②成果指標

事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)	
①スクールカウンセラー（県費）	相談回数	回	54	70	H23	-
					H24	-
②心の相談員	相談回数	回	123	146	H23	857,585
					H24	904,120
③メンタルヘルス相談業務委託	相談回数	回	28	52	H23	600,000
					H24	600,000
					H23	
					H24	

③事業の課題	【継続的な課題】 ①増加している不登校児童・生徒などを孤立させない対策として、不登校対策の連絡会の設置等を講じて、引き続き検討していかねばならない。 ②カウンセラーや相談員は中学校に配置されており、小学校でのケースにも充分対応できるような体制づくりを検討する。 【新たな課題】

5　改善方法･結果(ACTION)

課題の改善方法･結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①不登校対策の連絡会の設置については、教育委員会及び学校関係者や要保護児童対策地域協議会、行政関係機関等を含め検討する。 ②ケースに応じてカウンセラーや相談員を小学校にも派遣する等、柔軟な対応を検討する。 【新たな課題に対する改善方法の検討】

6　今後の計画･方向性(PLAN)

事業の計画･今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☑ 見直し	(内容)　☑ 予算拡充　☐ 予算削減　☑ 事業拡大　☐ 事業縮小　☐ 手法見直し　☐ 休止･廃止
	・今後も不登校問題をはじめ、児童・生徒のさまざまな課題に対応するため、相談体制の充実を図るとともに、状況に応じて、スクールソーシャルワーカー等の活用も検討する。 ・不登校対策として専属の指導主事を配置し、不登校対策の取り組みを充実させていく。また、保護者のつながりを深める支援を行っていく。	

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	⑦地域の教育力の向上	担当課名	教育総務課 (生涯学習課)	総合計画位置づけ	第1章･第2節の⑦
基本方向	・地域と学校が協力しながら、地域の文化や人材を活かした体験学習を継続します。 ・まち全体が学びの場となるまちづくりをめざして、子どもたちの学習に提供できる場所や資源などの掘り起こしとネットワークの体制強化を図ります。 ・学校の環境美化や緑化などについて、各種団体や地域ボランティアの参加が得られるように図ります。				

2　事業概要･目的(PLAN)

事業概要･目的

◎子ども人権学習支援事業
・少子化や核家族化の進行、就労形態の多様化及び家庭や地域の子育て意識の低下など、子どもを取り巻く環境の変化を踏まえ、子どもの様々な活動を支援する事業を実施し、地域の教育力の向上を図る。
・各小中学校において、地域ボランティアの指導のもと、和太鼓、茶華道、ゲートボールなどさまざまな体験学習を実施する。

◎学校支援地域本部事業
・学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることを目的に、学校が必要とする活動について、地域からボランティアを募り、学校の教育活動を支援する。

◎上記2事業が平成23年度より、「学校・地域連携事業」として一本化された県補助事業となっており、820,000円の補助金を、5：5で両事業へ振り分けを行った。

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果

◎子ども人権学習支援事業（活動実績）

活動名称	学校名	登録人数	実施回数	活動内容	担当課
どんどん和太鼓	三郷中学校	32人	26回	和太鼓の演奏	生涯学習課
茶華道クラブ	三郷中学校	13人	20回	茶道・華道の体験	教育総務課
多聞クラブ	三郷小学校	18人	16回	ゲートボール体験	教育総務課
ふれあいクラブ	三郷小学校	29人	16回	和太鼓の演奏	教育総務課・ふれあい交流センター
親子で遊び隊	三郷小学校	50人	1回	デイキャンプ	教育総務課
にこやかクラブ	三郷北小学校	7人	13回	手話コーラス	教育総務課
つながり学級	三郷北小学校	67人	6回	軽スポーツ、お茶、調理実習など	生涯学習課

※各活動の指導には、地域住民や各種団体の方に協力をしていただいた。
※親子で遊び隊、つながり学級の2教室共同で行う「つき入会」が7年度はノロウイルスの流行により中止となった。

◎学校支援地域本部事業
・この事業は、平成20年度から3年間の文部科学省委託事業で実施し、平成23年度からは町が実施主体となり補助事業で実施している。5年目となった平成24年度も、前年度までの活動実績を基本としながら下表のとおり、多様で充実した活動を行うことができた。

<主な活動実績>

学校名	活動内容
三郷小学校	登下校の安全確保、ヤギの診察、畑づくり、囲碁、プールの安全監視、パソコン指導補助、そろばん学習、家庭科実習、平和学習、運動場の整備、運動会テント設営、卓球、一輪車、音楽会、本の読み聞かせ、昔遊び学習など
三郷北小学校	わくわく農園、キラキラ池の整備（除草、整地、畑、めだかの飼育）、ケーブルカー塗装、運動会テント設営、茶道体験、遊具塗装、外国語支援、家庭科実習、パソコン指導補助、本の読み聞かせ、琴・尺八の鑑賞・体験、花壇整備、卒業製作、昔遊び体験など
三郷中学校	図書紹介・貸し出し、家庭科実習、校舎内生け花の設置、小菊栽培、職業体験、サッカークラブ支援、バレーボールクラブ支援など

<ボランティア登録人数>
・個人登録：117人　　団体登録：116人　　合計：233人(前年度比+14人)

<その他>

内容	開催場所	開催日	備考	参加人数
ボランティア給食会	三郷小学校	6月28日	ボランティアへの謝意	12人
	三郷北小学校	6月 8日	ボランティアへの謝意	50人

※三郷北小学校での給食会は、多くのボランティアの方々に支援いただく学校事業の日に重ねて開催する事で非常に多くの方に参加いただくことができた。
※天体観測会については当日の悪天候により中止となった。

4　点検評価･課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○子ども人権学習支援事業 ・様々な体験を通して、学年間の交流や目標に向かって努力する姿勢を学ぶ機会となった。 昨年度、一部教室の登録人数が練習会場の許容人数を超えてしまった事もあり、学年による参加の制限を設ける事で適正な人数となり、より良い環境で活動ができた。 ※各講座、文化祭や人権フェスタに出演。（出演回数：のべ7回） ○学校支援地域本部事業 ・事業開始から5年目を向かえ、登録者数は前年度比14人増となった。100%国負担の国委託事業から、県の補助事業となり2年目を迎えたが、平成23年度と同様に事業の縮小を防ぐために町で予算計上を行う事で事業を継続することができた。 ・同じ活動を行うボランティア同士でグループを組み、そのメンバーがそれぞれ知人などを誘う事で、今までに無かった形で事業に膨らみがでてきている。 ・緑化推進活動を行うグループが、昭和58年より学校に置かれている色褪せたケーブルカーの再塗装を数ヶ月間かけて行い、その様子が町の広報誌で掲載された。

②成果指標

事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)
①子ども人権学習支援事業	参加人数（のべ）	人	3,077	2,451	H23 1,496,032 H24 1,568,402
②学校支援地域本部事業1	ボランティア登録人数	人	219	233	H23 1,832,316 H24 1,407,562
③学校支援地域本部事業2	ボランティア参加人数（各学校計・のべ人数）	人	1,859	1,352	H23 - H24 -
上記③参加人数については、日常的なボランティア活動を含まない。平成23年度と平成24年度の延べ人数に差が生じているのは、平成23年度までは日常的なボランティア活動数を一部カウントしていた為である。					H23 H24

③事業の課題	【継続的な課題】 ①子ども人権学習支援事業の参加人数が少ない活動がある。 ②学校支援ボランティアの登録人数を増やす事。 ③ボランティアの種類によっては、本人が意欲的であっても活動が少ない場合がある。 【新たな課題】 ・平成24年度、学校支援事業の地域コーディネーター1名が年度途中で辞職された際に、新しいコーディネーターを探し、配置するまでに約半年の期間が空いてしまい、ボランティアの参加人数が減少した。

5　改善方法･結果(ACTION)

課題の改善方法･結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ・学校支援ボランティアの募集チラシをデザイン・募集項目を大幅に見直し、町広報誌に同包し、全戸配布を行っていく。 ・昨年度の課題であった、子ども人権学習の一部教室で練習会場の許容人数を大幅に超えてしまった問題に対しては、学年による参加制限を設ける事で解決することができた。 【新たな課題に対する改善方法の検討】 ・地域コーディネーターが辞職した際に備え、依頼が可能なコーディネーターの名簿を作成し、事前に協議する。

6　今後の計画･方向性(PLAN)

事業の計画･今後の方向性	☐ 現状維持 ☑ 見直し	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可) (内容)　☑ 予算拡充　☐ 予算削減　☐ 事業拡大　☐ 事業縮小　☑ 手法見直し　☐ 休止･廃止
		・子ども人権学習支援事業は、募集方法や内容を一部見直した上で継続する。 ・学校支援地域本部事業については、前年度と同様にボランティア人数を増やす事を最優先事項とし、さらに充実させていく。 平成23年度より、国委託事業から補助事業に移行となり補助額も減額となっている為、事業を後退させないよう、町事業として引き続き予算計上をしていく。

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	⑧安全･安心の学校づくり	担当課名	教育総務課	総合計画位置づけ	第1章･第2節の⑥
基本方向	・学校と地域の連携を深め、「子ども見まもり隊」をはじめとした地域ぐるみの見まもり活動の展開を支援し、情報交換の場の設置を図ります。 ・子どもの安全を守るため、パトロールや巡視などの対策を継続するとともに、不審者情報メールの配信を充実し、万が一の際にも迅速に対応できる体制の整備を図ります。 ・園児・児童に対する防犯・交通安全教室を開催し、自ら身を守ることができる教育を進めます。				

2　事業概要･目的(PLAN)

事業概要･目的

○子ども情報ネットさんごう
・子どもの安全確保を目指し、不審者情報等を登録者の携帯電話等にメール配信する。
○さんごう子ども見まもり隊
・学校と地域の連携により、自治会を中心とした住民ボランティアの皆様にご協力いただき登下校時の通学路の巡視を行う。
・上記にあわせてシルバー人材センターに委託し、小学校の下校時に安全巡視員を通学路に配置し、児童の安全確保を図る。
○青色防犯パトロール
・小中学校の下校時にあわせて、町内を巡回する青色防犯パトロールを実施する。
○防犯・交通安全教室
・小学校及び幼稚園において、警察の協力により、防犯・交通安全教室を開催する。
☆子ども110番の家（町長部局環境政策課所管事業：参考掲載「☆」印で示しています。）
・子どもが犯罪などの被害に遭った、または遭いそうになったと助けを求めたとき、子どもを保護し、関係機関へ連絡するなどして、子どもの安全を守る。

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果

○子ども情報ネット配信状況

不審者内容	件数	町内件数
声掛け	1	0
つきまとい	3	3
露出	2	0
痴漢	1	0
盗撮	0	0
傷害・犯罪	1	1
不審電話	0	0
合計	8	4

【配信内容】
・三郷町及び近隣町で発生した子どもに関わる事件や不審者情報を、登録者へメール配信する。
【メール登録人数】
・児童や生徒の保護者、各種団体、関係団体などあわせて740人。（平成25年3月現在）

○さんごう子ども見まもり隊
【見まもり隊登録団体及び登録者数】

登録団体の種類	団体数	登録者数(人)
自治会	13	162
学校関係	7	115
各種団体	15	170
町議会	1	10
町関係	1	9
個人	1	10
合計	38	476

【子ども安全対策連絡会議】
・地域との連携及び情報交換を図る場として子どもの安全対策連絡会議を各学期ごとに年3回実施。

○下校時巡視委託
・通学路の危険箇所に安全巡視員（シルバー人材センター）を配置し、各学校の登下校時及び放課後児童クラブの下校時における交通指導及び巡視を行った。
①三郷小学校　：4人（うち放課後児童クラブ1人）
②三郷北小学校：3人（うち放課後児童クラブ1人）

○青色防犯パトロール
・子どもの安全を守るため、小中学校の下校時にあわせて、役場全課の交代制により、町内を巡回する青色防犯パトロールを実施した。
①三郷小学校校区　：年間45回
②三郷北小学校校区：年間44回

○防犯教室など
・各学校・幼稚園にて防犯教室を開催した。
・警察の協力により、新小学校1年生に防犯ブザーを配布した。

☆子ども110番の家
・登録世帯数：約700世帯（自治会、学校関係、各種団体など）

4　点検評価･課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ・子どもの安全対策に町全体の取り組みとして実施した結果、平成24年度においては、子どもの生命や身体に危害を及ぼす重大な犯罪被害の発生はなかった。 ・防犯教室は、児童や園児による参加型の研修を毎年実施しており、自分の身を守ることに対する良い意識づけの機会となっている。 ・子ども見まもり隊の登録者数は、近隣自治体と比べて非常に多いため、一定の広がりがみえている。 ・年度当初に、町内の見守り隊活動についての実態を把握するために1ヵ月間登下校時に町内を巡回し、見守り活動がされている個所を地図に記していく調査を行った。その結果、町内の交通・防犯上の危険個所とされている個所の多くでボランティアの方々による見まもり活動が行われている事が確認できた。 ・町内の通学路危険個所の情報を学校から聴取した結果、両校合わせて16個所が挙げられた。全ての個所を教育委員会・道路管理者・西和警察署交通課・区域校の担当教員と合同で点検を行い、6個所については平成24年度中に対策済み（減速マークの新設・交通安全啓発看板の設置等）であり、残る11個所についてもH25年度中に対策を行う予定となっている。主な対策予定内容は、横断歩道の新設や、路面のカラー舗装等となっている。

②成果指標

事業名	成果指標名	単位	H23	H24	決算額(円)	
①子ども情報ネット配信	メール登録者数	人	809	740	H23	378,000
					H24	378,000
②子ども見まもり隊	見まもり隊登録人数（累積人数）	人	468	476	H23	-
					H24	-
③巡視委託	巡視回数（両小学校年間合計・延べ回数）	回	2,470	2,682	H23	2,054,929
					H24	2,231,388
④青色防犯パトロール	パトロール回数	回	91	89	H23	0
					H24	0
					H23	
					H24	

③事業の課題	【継続的な課題】 ○子ども見まもり隊において、協力団体（地域）による温度差がある。 ○放課後児童クラブの下校時の見まもり隊の参加が少ない。 ○東日本大震災を受け、安心される学校づくりとして、各学校の防災面を見直す必要がある。 【新たな課題】 ○教育委員会より学期開始前に配布する下校時間一覧表を元に、見まもり隊ボランティアの方々に見まもり活動を行っていただいているが、下校時間が変更になった際に、見守り活動を行う時には既に児童が下校してしまっている事があった。

5　改善方法･結果(ACTION)

課題の改善方法･結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ○継続して子ども見守り隊の登録者数の更なる増加を目指し、それにより地域格差を埋めていく。 ○放課後児童クラブの下校時間の周知と、見まもり活動の必要性について関係会議等において周知する。また、安全巡視員の人数を増やす。 ○東日本大震災後における各校の防災マニュアルを見直す。 【新たな課題に対する改善方法の検討】 ○各校へ下校時間の変更があった際には教育委員会へ報告することを徹底する。 ※変更がある事が把握できると、メールの一斉送信を利用してボランティアの方々への連絡が可能。

6　今後の計画･方向性(PLAN)

事業の計画･今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☑ 見直し	(内容)　☑ 予算拡充　☐ 予算削減　☐ 事業拡大　☐ 事業縮小　☐ 手法見直し　☐ 休止･廃止
		・今後も町全体の取り組みとして、地域との連携を図り、事業の拡大を目指す。 ・子ども情報ネットや、子ども見守り隊への協力依頼・周知方法を再検討し、登録人数を増やすよう努める。 ・各校の防災マニュアルを平成25年度中に見直し、必要があれば改正する。 ・通学路危険個所についての対策を平成25年度中に完了する。

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	⑨学校給食体制の整備	担当課名	給食センター (教育総務課)	総合計画位置づけ	第1章･第2節の④
基本方向	・老朽化が進んでいる学校給食センターについて、建て替え事業を進めます。 ・「学校給食衛生管理基準」に則り、学校給食における衛生管理の徹底を図ります。 ・「食育」の一環として、学校・幼稚園における給食指導を継続します。				

2　事業概要･目的(PLAN)

事業概要･目的	○安全安心の学校給食 ・職場の衛生管理そして職員の健康管理等を行うとともに、安全安心な給食材料を使用する観点から、より多くの地場産の野菜等を使用して安全安心の学校給食を提供する。 ・職員の資質向上を図るため、県の調理員研修に参加する。 ○食育の推進 ・正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身につけ、食事を通して自らの健康管理ができるようにするために、食の指導の充実を図る。 ○給食センターの建替 ・開所以来、35年が経過し、施設、設備等の老朽化が著しいため、給食センターの建替事業を実施する。 ○放射能測定器による食材検査 ・幼児、児童、生徒へ安全な食材を使用した給食を提供するため、政府の原子力災害対策本部が指示した出荷制限対象となる17都県を産地とする食材についての検査を実施する。 また、食品中の放射性物質に係る国の検査基準値（セシウム134及びセシウム137の総和の量）は、一般食品が100Bq/kg以下。牛乳が50Bq/kg以下と示されているが、当町の検査の測定下限値は、すべて40Bq/kg以下とし測定下限値を超えた食材は使用しないことにより安心・安全な給食の提供に努める。

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果	○安全安心の学校給食 ・町内公立幼稚園・小中学校において、センター方式による学校給食を実施している。また、幼稚園・小学校で保護者を対象に給食試食会を実施し、195人が参加した。 ・児童生徒に安全・安心な学校給食を提供するため、できる限り、国内産食材を使用し、また、地産地消の観点からも、県学校給食会推奨食品や信貴山のどか村の旬の野菜を積極的に使用した。 ・国の学校給食地場農畜産物利用促進事業を実施して、奈良県産品の使用に努めた。 ・県が実施している調理員研修にも積極的に参加して、職員の資質の向上に努めた。 ①衛生管理・特定給食施設関係職員等研修会（6月14日）　参加人数：1人 ②学校給食衛生管理指導者実技講習会（7月24日）　参加人数：2人 ③学校給食調理員研修会（8月21日）　参加人数：9人 ○食育の推進 ・食育については、各学校で食に関する指導の全体計画を作成し、実践している。具体的には、生活科・家庭科・総合的な学習の時間における食に関する指導や給食に関わる指導を実施した。 【内容】 ・教科等授業時間数：　10時間 ・給食指導時間数　：　8時間 ・個別指導その他　：　10時間 ○給食費の滞納状況 ・給食費の滞納者に対しては文書等での督促、家庭訪問での徴収や督促に応じない滞納者に対しては、奈良簡易裁判所への支払督促の申立を実行する旨を通知し、滞納の解消に努めた。 ・昨年度より滞納繰越額が増加したが、その原因は保護者の経済的理由のみならず、明確な徴収計画による給食費徴収の手立てが不足していた。 【平成24年度末現在滞納状況】 ①滞納繰越額(平成21年度～平成23年度)　884,700円（31人） ②徴収額　660,400円（23人） ③平成24年度末滞納繰越額　224,300円（8人） ④平成24年度分滞納額（現年度分）　585,400円（20人） ☆平成24年度滞納繰越額（合計）　809,700円（28人） ○給食センター建替事業 ・建替事業は一時休止となっていたが、再度、建設場所も含め建替えについて、まちづくり推進課と教育総務課、給食センターが協議を行い新しい給食センターの設置に向け事業を進めることとなった。 ○放射能測定器による食材検査 ・幼児、児童、生徒へ安全な食材を使用した給食を提供するため、平成24年3月1日より放射能検査測定器による食材検査を実施した。 【検査数】　1学期　108品 2学期　112品 3学期　57品　合計検査数　277品 ※放射性セシウム　不検出　すべて、40Bq/kg以下

4　点検評価･課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ・地産地消の推進を図りつつ、安全安心な学校給食を実施できた。 ・夏休み等を利用し、調理員の研修を重点的に行い、資質向上を図ることができた。 ・給食試食会や食育指導事業を通じて、給食に対する理解が深められた。【成果指票①②】 ・給食費の滞納整理については、平成23年度末の滞納額884,700円から平成24年度末は809,700円となり、平成23年度末に比べて、少額ではあるが75,000円の減となった。 ＊平成23年度の滞納繰越額と比べると、平成24年度の滞納繰越額は多少の減がみられるが、なお一層の対策の強化が必要である。【成果指標③】 ・給食センター建替事業については、平成21年度、地元の理解が得られず建設事業を進めることはできなかった。平成22年度については一時休止状態であったが、平成23年度より建設場所も含め建替事業の業務については、まちづくり推進課と教育総務課、給食センターが協議を行い新しい給食センターの設置に向け事業を進めることになった。今後においては、給食施設のあり方や環境整備など、ソフト面について協議が必要である。【成果指標④】。

	事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)
②成果指標	①給食試食会	参加人数	人	145	195	H23 - / H24 -
	②食育指導	延べクラス数	ｸﾗｽ	14	24	H23 - / H24 -
	③給食費の滞納整理	滞納者数（年度末）	人	31	28	H23 884,700 / H24 809,700
	④給食センター建替事業	再検討		-	-	H23 - / H24 -
	⑤食品放射能測定器による食材検査	年間検査数	品	0	277	H23 - / H24 -
						H23 / H24

③事業の課題	【継続的な課題】 ①給食費の徴収については、現年度分の繰越が毎年発生しており、対策を考える必要がある。過年度分についても、減少できるような対策を講じる必要がある。 【新たな課題】 ①給食センター建替事業については、まちづくり推進課と教育総務課、給食センターが協議を行い新しい給食センターの設置に向け事業を進めることになったが、給食施設のあり方や環境整備など、ソフト面については提案していく必要がある。

5　改善方法･結果(ACTION)

課題の改善方法･結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①現年度分の繰越については継続的な課題であり、学校から保護者に働きかけるとともに、児童手当が支給されていることから、給食費を児童手当から引き落とすように働きかけ、過年度分の滞納で再三の督促に応じない滞納者に対しては、奈良簡易裁判所への少額訴訟の申立を粛々とすすめ、給食費の滞納を解消する。 【新たな課題に対する改善方法の検討】 ①給食施設のあり方や環境整備など、ソフト面については、学校関係者、園児・児童・生徒の保護者、栄養士、調理員等で検討委員会を設置し、それぞれの立場からの意見や要望を集約した上で、まちづくり推進課と協議を行い、限られた予算で三郷町の実情にあった給食センターの設置に向けて検討協議が必要である。

6　今後の計画･方向性(PLAN)

事業の計画･今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☑ 見直し	(内容)　☐ 予算拡充　☐ 予算削減　☐ 事業拡大　☐ 事業縮小　☑ 手法見直し　☐ 休止･廃止
	・今後も地産地消を推進し、安全安心の学校給食を実施する。 ・給食費の滞納整理については、学校と連携・協力しながら、現年度分の未納解消に努め、再三の督促に応じない滞納者には、法的措置を講じることで滞納の解消を図る。 ・新たに建設される給食センターについては、町の重要施策であるため町長部局との連携を密に図りながら、町全体の取り組みとして事業を行う。給食センターは、施設のソフト面の充実に向けて検討協議を行い具体案を提出する。	

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	⑩幼児教育の充実	担当課名	南畑幼稚園 (教育総務課)	総合計画位置づけ	計画なし
基本方向	・新幼稚園教育要領に基づく、適切な教育課程の編成を行います。 ・幼児の心身の発達と義務教育及びその後の教育の基礎を担う幼児教育の充実に努めます。 ・地域に信頼される開かれた幼児教育を推進します。				

2　事業概要･目的(PLAN)

事業概要･目的	・幼児が、自然な生活の流れの中で直接的・具体的な体験を通して社会・文化・自然などに触れ、豊かな感性を育み、生きる力の基礎を培う環境の構成に努める。 ・幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題を見極め、個々の成長を援助し、幼児期に育てるべきことを幼児期にふさわしい生活を通して育てることで円滑に小学校へ移行できるようにする。 ・保護者や地域の方々に信頼される幼稚園を目指して、幼稚園の機能を活かして預かり保育や園庭開放・教育相談を行い子育て支援に努める。

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果	○バザー及び模擬店（やまびこ祭） ・ＰＴＡ事業として、協力体制、実施方法、改善方法をＰＴＡ役員と協議しながら7月第１土曜日に実施した。 ○奈良県教育週間（11月） ・奈良県幼稚園教育研究会による子ども作品展の実施、出展。 ・地域の教育力の向上と地域に開かれた幼稚園づくりを目的に、地域の方と保護者が保育参加する幼稚園ウィークを実施 【内容】 3歳児：親子で地元の良さをよりよく知るため、信貴山寺周辺の散策 4歳児：三郷町栄養士会の協力により親子でバター作り体験をし、できたバターを使ってクッキング体験をした。 5歳児：地域の方（のどか村）の指導を受けながら頂いたサツマイモのつるを使ってリース作りをした。 ○特別支援教育 ・特別な支援を必要とする園児への対応として、個別指導計画の作成と保護者や関係機関との連携を図りながら、教員の指導力向上に努めた。また定期的に講師を招いて園内研修を行った。 ○食育の推進 ・毎月一回、手作り弁当日を設定し、保護者に食育の大切さを考えていただく機会としている。 ・5月、給食参観と重ねてＰＴＡ人形劇「ともとも」による食育に関する人形劇を親子で鑑賞した。 ・学校給食センター栄養教諭による、保護者参加の食育に関する講演会を実施した。 ・5歳児が中心となり、地域の方々の指導を受けながら園内菜園を行う。また、8月の園庭開放では園内菜園で収穫された野菜を使ってカレーライス作りを行い親子で食す機会とした。 ・給食センターと連携を取りながら、給食に対する興味・関心を高めるために、年長児を対象に給食ができるまでの様子をビデオ撮りした映像を見て仕組みを知る機会にしたり、給食に使われる食材の収穫（のどか村にて）を体験する。 ○子育て支援及び預かり保育 ・保育終了後に園庭を解放して、園児の成長を共有することから、保育内容の理解や家庭教育の啓発、子育て相談を行う「にこにこランド」を年間７回実施した。 ・家族の通院や介護、兄姉の授業参観等のほか、緊急的な保護者の就労時間の延長等も含めて、緊急又は臨時的に降園時刻以降の保育が必要な場合に、個々の事情にできる限り対応し、預かり保育を行った。

4　点検評価･課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ・PTA事業のバザー及び模擬店は保護者の意識の変化により開催の仕方を検討する必要があると感じられるが、幼児にとっての教育的意義はもとよりPTA役員の開催以後の達成感につながっている。また保護者間の連帯感や関係作りに役立っているように感じられる。 ・預かり保育については拡張を求める声もあるが、今のところ、現状維持で対応している。ただこれまでの預かり保育の一定条件から少し幅を持たせて、できる限りニーズに応えられるようにしていった。 ・園庭開放「にこにこランド」は趣旨などを理解していただき、定着してきたと思われるが、実施日や時間帯が小学生の兄弟がいる家庭にとっては合わせにくい状況の場合もあるようだ。内容については、親子のふれあい遊びを多く取り入れたり、親子で楽しんでいただけるお話し会やフリータイムを設けて好きな遊びを楽しめるようにしたり、保護者にとっては教師と話をする時間として活用していただけるよう選択肢を広げるようにした。

②成果指標

事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)
①預かり保育	実施回数	回	28	24	H23 - H24 -
②園庭開放「にこにこランド」	参加人数	人	403	550	H23 - H24 -
					H23 H24
					H23 H24
					H23 H24

③事業の課題	【継続的な課題】 ①地域の実態や保護者の実情を考慮しながら、保育時間や日数、預かり保育について配慮すること。 ②園庭開放「にこにこランド」では、実施日が限られてくるが、小学生の兄弟・姉妹をもつ家庭の参加は、下校時刻や習い事の送迎などの関係で参加したいのにできないという声も聞かれ、参加できる家庭が限定されることについてが今後の検討課題である。 ③小学校の円滑な接続について充実を図るために職員の研修を重ねる必要がある。 【新たな課題】 ①同じ町内の子どもを預かる施設として、幼保の連携は重要で積極的な意見交流や研修を重ねていく必要がある。

5　改善方法･結果(ACTION)

課題の改善方法･結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①保育時間拡張や預かり保育の弾力的な運用については厳しい状況であるが、人員の配置を含めて今後も検討していく必要がある。また保護者のニーズも多様化してきているので、時には園長・補佐も保育を担当できるなどして、もできる限り柔軟に対応できるようにする。 ②園庭開放「にこにこランド」では、より多くの方に参加していただけるよう内容の充実と実施日や時間を固定しないで、少しでも多くの方に参加していただける工夫が必要。 ③教師間交流が不十分だったため、円滑な幼小の接続を目指して幼児と児童の交流はもとより教師間交流や合同研修の機会が持てるような連携に今後も積極的に努めていく。 【新たな課題に対する改善方法の検討】 ①同じ公立の保育園との連携を充実できるよう、園児の交流のほか、職員間の交流や合同研修などを積極的に実施できるような連携をしていく。

6　今後の計画･方向性(PLAN)

事業の計画･今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☑ 見直し	(内容)　☐ 予算拡充　☐ 予算削減　☐ 事業拡大　☐ 事業縮小　☑ 手法見直し　☐ 休止･廃止
	・今後も地域や保護者から信頼される幼稚園を目指し、職員の資質向上のための積極的な研修の参加と教育内容の充実を図る。	

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	⑪放課後児童クラブの充実	担当課名	教育総務課	総合計画位置づけ	第1章･第1節の④
基本方向	・放課後や夏・冬休み時に子どもが集まって、学習や遊びを通して自主性や社会性・想像力を養えるよう放課後児童クラブを推進します。 ・放課後児童クラブにおいて、障がいのあるなしに関わらず、ともに参加できるよう関係者の理解やボランティア活動の促進に努めます。				

2　事業概要･目的(PLAN)

事業概要･目的	◎放課後児童クラブの運営【県補助事業】※補助額5,715,000円 ・保護者が労働等により昼間家庭において保育できない児童に対し、適切な遊び及び生活の場を与え、その健全な育成を図ることを目的に、小学校の空き教室を利用して、町が運営主体となり、放課後児童クラブを設置する。 ①対　　象：町内小学校に就学している概ね10歳未満（1年生～4年生）の児童 ②名　　称：三郷小学校放課後児童クラブ　（定員35名） 三郷北小学校放課後児童クラブ（定員70名） ③開所時間：学校授業日　午後2時～午後6時 学校休業日　午前8時～午後6時 ④休 所 日：土、日曜日及び祝日（年末年始） ※7月・8月を除く、第2土曜日は事前申込制により開所。 ⑤育 成 料：毎月5,000円（ただし、要件を満たせば、申請により育成料の減免措置あり。）

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果

○入所人数

放課後児童クラブ名	入所人数（人）	うち特別支援（人）
三郷小学校放課後児童クラブ	32	3
三郷北小学校放課後児童クラブ	65	6

※入所人数は年間平均

○製作
・モノを作る楽しさ、自分で工夫し創造する楽しさを体感させるため、下記の製作を行った。また作品については、保護者等へのプレゼントにすることにより、日ごろの感謝の気持ちを表し、家族の絆を再確認できる機会となった。
①春の製作：万華鏡
②クリスマス製作：ぬいぬいソックス
③正月製作：祝い箸

○伝承遊び
・日本に古くから伝わる遊びを通じて、日本の文化を再認識し、また友だちと集団で遊ぶ楽しさを実感させるため、冬期に下記の伝承遊びを実施した。また、目標をクリアしていく達成感や児童のやる気を喚起させるため、検定票を作成し、成績上位者にはメダルの授与を行った。
※こま、なわとび、けん玉

○指導員研修
・指導員の資質の向上を図るため、県の児童福祉施設等職員研修に参加した。
・内容　①講演：発達障害のある子どもたちへの支援
②遊びの広場への参加（遊びに関する知識を深め、子どもたちに遊びの奥深さを知ってもらう。）

○育成料の減免
・低所得世帯の方を対象に、毎月の育成料の減免を行った。
※減免者数：25人

○特別な支援を要する児童の受け入れ及びボランティアの活用
・放課後児童クラブでは、特別な支援を要する児童についても受け入れている。
・夏休み、春休み中、広報で募集した大学生のボランティア指導員（9人）

4 点検評価･課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ・入所者については、両放課後児童クラブともに年度当初は定員超過となり、待機者も発生したが、年度末には待機者はゼロの状態となった。【成果指標①】 ・日々の通常保育だけでなく、製作や伝承遊びなどを盛り込み、保育内容の充実を図った。伝承遊びでは発表会の場を設け、上手にできた児童へ金・銀・銅メダルを贈る事で児童のやる気を促した。 ・平成23年度から導入した点数制による入所要件により、保育を本当に必要としている児童から順に入所していただくことができた。 ・継続的な課題であった学校長期休業中の開所時間が遅いという問題に対しては、平成24年度より従来の午前9時開所を、午前8時開所にすることで解決を図った。 ・非常勤職員を1人増員する事で、課題であった指導員のシフトのムラの解決を図った。 ・別事業で通学路の危険個所対策を行っているため、学童の集団下校についても一定の安全を確保できている。

②成果指標

事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)
①放課後児童クラブ運営	入所人数 ※決算額は運営費	人	100	97	H23 17,188,736 H24 16,415,634
②育成料の減免	減免者数	人	20	25	H23 - H24 -
					H23 H24
					H23 H24
					H23 H24

③事業の課題

【継続的な課題】
①三郷北小学校放課後児童クラブで使用している教室は、勢野北地域の児童が増加していることから、三郷北小学校のクラス数の増加が見込まれ、放課後児童クラブの教室を学校に返却しなければならない状況も考えられるため、単独施設の設置も含め運営場所を検討する必要がある。
②放課後児童クラブの下校時の安全確保が十分であるかどうかの検討を加える必要がある。

【新たな課題】
①午後6時の閉所時間は、一部の保護者にとっては早すぎるため児童を迎えに行くのが難しい。
②年度末に平成25年度の放課後児童クラブの募集を行った際、両校それぞれで募集人数が定員を10人以上超えてしまい、待機児童が多くなった。

5 改善方法･結果(ACTION)

課題の改善方法･結果

【継続的な課題に対する改善方法及び結果】
①平成24年度においては、クラス数の増加はなかったが、今後三郷北小学校放課後児童クラブについては、引き続き入学児童数を調査しながら、対応を検討する。
②シルバー人材センターに委託している放課後児童クラブ下校時の付き添い人数の増員を行う。

【新たな課題に対する改善方法の検討】
①指導員のシフトや雇用も踏まえたうえで、保育時間の拡大を検討する。
②三郷小学校においては、平成25年度に空き教室を使用し、定員を35人から70人とする事で解決済みである。三郷北小学校においては、待機児童を解消するため新たな学童施設の建設を検討する。

6 今後の計画･方向性(PLAN)

事業の計画･今後の方向性

☐ 現状維持
☑ 見直し

※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)

(内容) ☐ 予算拡充 ☐ 予算削減 ☐ 事業拡大 ☐ 事業縮小 ☑ 手法見直し ☐ 休止･廃止

・放課後児童クラブのニーズは高まってきており、三郷北小学校において、新たな学童施設の建設を検討。
・より充実した保育環境の実現のため、更なる指導員の増員を検討する。
・閉所時間の延長については保護者のニーズが高いこともあることから、平成25年度に延長する方向で検討する。

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	⑫生涯学習の推進	担当課名	生涯学習課	総合計画位置づけ	第1章･第3節の①
基本方向	・時代に即応した町独自の学習の企画・開発に努め、より多様で充実した学習機会の提供を進めます。 ・知識・経験をもった人材が生涯学習に活躍できるよう、各種講座へのボランティア派遣制の構築を図ります。 ・各種団体、学校、企業などの協力を得ながら、住民ニーズに合った学習講座の開催と様々な情報提供システムの構築を図ります。				

2　事業概要･目的(PLAN)

事業概要･目的	○学習基盤の整備 ・地域住民が主体的な活動により、心身ともに健康で豊かな人生をおくることができるよう、多様な分野における学習活動の場を提供する。 ○地域住民等の人材の活用 ・事業実施に伴い活動を担う指導者やボランティアの育成を図り、地域住民等の人材を活用するとともに、その団体やグループに支援を行う。 ○各種学級事業 ・主体的な学習を支援するため、学習に必要な講師等を招き住民ニーズに応じた各種学級を開講する。

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果

○学習基盤の整備
社会情勢や住民ニーズの情報を取り入れ、時代に沿った学習内容とする。

○各種学級の運営状況

学　級　名	目　　的	事　業　内　容	平成２３年度		平成２４年度	
			学級生数	開催回数	学級生数	開催回数
家庭教育学級	地域社会の中で、子どもの家庭教育の重要性や役割を認識し、子育て等に関する学習の機会を通して、家庭の活性化を図るとともに、学級生のネットワーク機能を充実させる。	・調理学習 ・健康学習 ・教養講座 ・施設見学 ・子育て支援講座 ・防災学習ほか	３０人	１１回	２６人	１１回
長寿学級	熟年者として、時代の流れに対応できる生き方・暮らし方を求めて自主的・意欲的な学習活動を通じて、生き甲斐を感得する。	・軽スポーツ ・健康学習 ・教養講演会 ・施設見学ほか	１４０人	１１回	１２７人	１０回
くれない学級	教養を高め自主的・意欲的な学習活動を行い女性としての生き甲斐を高める。	・教養講座 ・歩く会 ・健康学習 ・社会見学ほか	５２人	１１回	４７人	１１回
歴史教室	身近な歴史とふれあい個々の知識を深め心豊かにする。	・講義 ・現地学習ほか	１０２人	１３回	９１人	１３回
みさと 万葉学習会	万葉集の学習を通じ個々の知識を深めるとともに町の歴史と文化についても関心をもち心豊かにする。	・講義 ・現地学習ほか	６０人	１５回	５４人	１５回

※５学級合同学習会として、７月に「人権学習会」、１０月に「教育講演会」、２月に「健康福祉学習会」を開催した。

・婦人学級の休講について
婦人学級の入級資格は、三郷町婦人会会員であることが条件であるが、この婦人会の会員数が、ここ数年で激減しており、それに伴う運営も大変厳しい状況にある。この状況では、婦人学級の学級生を確保するのも難しいため平成24年度は休講とした。

4　点検評価･課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○各種学習の運営 ・生涯学習学級として、「家庭教育学級」、「長寿学級」、「くれない学級」、「歴史教室」、「みさと万葉学習会」の5学級を開催した。【成果指標①】 ・各学級の運営は各運営委員会により事業内容等を検討するなど、学級の自主的な運営が実施できた。 ・学習内容について、一部の学級受講者にアンケートを実施し、学級運営が良かったという意見が多く得られた。 ・家庭教育学級については、子育てに関することに重点をおくことにし、学級生の反応も良かった。 ○地域住民等の人材の活用 ・学級の開催における講師等には、地域の機関・団体や個人を招き人材を活用し、地域の活性化が図られるとともに、町外の講師も招き、内容の充実に努めた。また、奈良県登録の講師を招き、他機関の人材も活用した。

②成果指標

事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)
①生涯学習学級	登録者数	人	384	345	H23 759,412 H24 789,668
					H23 H24
					H23 H24
					H23 H24
					H23 H24

③事業の課題	【継続的な課題】 ①開催している生涯学習の学級がここ数年同じ内容で推移している。受講者には人気があり継続しているが、社会情勢や住民ニーズを的確にとらえながら新しい学級や講座の開催を検討することが必要である。 ②生涯学習学級全体的に生徒が減少しており、学級の内容等を検討する必要がある。 ③各種学級の参加者にアンケートを実施し、住民のニーズを反映する必要がある。 【新たな課題】

5　改善方法･結果(ACTION)

課題の改善方法･結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①学級や講座の開催については、住民ニーズ等を把握し、必要に応じ学級運営の見直しや新設を検討したが、本年度も前年度同様の学級体制のニーズがあり同じ学級運用をする。 受講者からは、前年度同様の学級体制でのニーズが高いため、本年度においても前年度同様に体制を変えず学級運用を継続しているが、別の角度から見るとマンネリ化・固定化といった状況でもあると考えられるので、学級生全体にアンケートを実施しニーズを把握するとともに、各学級の運営委員会において検討・協議を行い充実を図る。また、新しい学級や講座の開催も検討する。 ②生徒が減少している生涯学習学級の対策として、現学級を魅力ある学級として運営の改善を図るため今後もカリキュラムの検討を行う。 【新たな課題に対する改善方法の検討】

6　今後の計画･方向性(PLAN)

事業の計画･今後の方向性	☑ 現状維持 ☐ 見直し	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可) (内容)　☐ 予算拡充　☐ 予算削減　☐ 事業拡大　☐ 事業縮小　☐ 手法見直し　☐ 休止･廃止
	・住民が主体的に学習ができる学級運営を行う。 ・地域の社会資源を掘り起こし活用する。	

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	⑬青少年の健全育成	担当課名	生涯学習課	総合計画位置づけ	第1章･第2節の⑧
基本方向	・児童・生徒の健全育成のため、問題行動の解決に向けた地域ぐるみの取り組みを推進するとともに、関係機関と連携し、早期発見・早期指導の体制充実を図ります。				

2　事業概要･目的（PLAN）

事業概要･目的	○青少年育成三郷町民会議 ・青少年問題の重要性に鑑み、関係機関および団体が緊密な協力により、広く町民の総意を結集し次代を担う青少年の育成を図る。 ①親子のつどい ・活力と創造力に満ちた青少年を育成するとともに、親子・地域社会等のふれあいを築くことを目的とする。 ②教育講演会 ・次代を担う青少年の育成を図ることを目的として講演会を開催する。 ③非行防止 ・有害図書類等に対する立入調査を実施（年1回）する。 ・巡回補導の実施及び関係団体の協力のもと、夏休み・春休みに町内の巡視を行う。 ○成人式 ・新成人の門出を祝福するため「成人式」を開催する。

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果	○青少年育成三郷町民会議 ①指導推進部会 幼保小中高の様子や長期休業期間の生活の様子などについて意見交換を行い、情報を共有すると共に各学校園に持ち帰り児童生徒等の指導にあたる。 ②調査研究部会 本年度の非行行為について、地域社会の教育力を高める方策を協議し、委員を対象に研修会を開催した。 期　　日　　平成25年2月26日 場　　所　　文化センター　音楽室 講　　師　　奈良つきあかりの会　代表　瀬戸　こころさん 演　　題　　地域で支える子育て 参加人数　　35人 ③啓発促進部会 町民会議の各種事業について、関係機関等に事業開催の案内やポスターの作成及び掲示を行った。 ④地域活動部会 親子のつどいの開催について部会を開催し、関係機関と協議・連携を行い事業を実施した。 ⑤関係機関との連携 「三郷町要保護児童対策地域協議会」や「定例人推・児童館連絡会」と連携を図り、幼児・児童生徒がおかれている現状を認識し、青少年の育成を図った。 ○教育講演会 ・本年度は、初めて町民文化祭とタイアップして「トーク＆ゴスペルコンサート」を開催した。 期　　日　　平成24年10月27日 場　　所　　文化センター　文化ホール 講　　師　　ゴスペルシンガー　新井深絵さん 演　　題　　心、元気に～一歩踏み出せば風は変わる～ 参加人数　　194人 ○親子の集い ・本年度は、参加家族みんなで野外炊飯・味覚狩り・ゲームを行い、楽しみながら親と子、子ども同士のつながりを図ることができた。 期　　日　　平成24年11月23日 場　　所　　農業公園信貴山のどか村 参加人数　　小学生　39人・5歳児　13人・5歳児未満　11人・保護者　56人　合計　119人 ○非行防止 ・平郡町と三郷町合同による有害図書等の巡視を平成24年11月16日に実施した。 ・巡回補導 生駒郡4町合同で、平成24年10月27日に実施した。 ・巡視活動 関係機関の協力のもと、学校の長期休業期間に12回、町内を公用車において巡視した。 （巡視時間　20時～22時） 夏休み期間　7月24日・26日・31日、8月2日・7日・16日・21日・23日 春休み期間　3月25日・26日・28日・29日 ○不登校対策 ・学校と連携を図り、不登校生徒に対する通学支援等を実施した。 ○成人式 ・三郷町文化センター及び三郷町スポーツセンターにおいて実施した。 期　　日　　平成25年1月14日 参加人数　　138人

4　点検評価･課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	○青少年育成三郷町民会議 ・関係機関の協力・連携を図り、各部会の活動も予定どおり行うことができ、青少年の育成が図られた。 ○親子のつどい ・平成24年11月23日に実施し、119人の参加があった。【成果指標①】 ○教育講演会 ・平成24年10月27日に実施し、194人の参加があり、昨年度と比較し、参加人数は微増となった。参加人数の増員を見込んで町民文化祭とタイアップしたが、他のイベントとの時間帯が重なっていることが微増の要因と考えられる。【成果指標②】しかし、青少年の健やかな育成について町民文化祭における住民への啓発効果は大きいと判断し、今後も引き続きタイアップして実施することを確認する。 ・参加者に対しアンケートを実施したところ、「講師と会場が一体となり、感動しました。とても元気をいただきました。」・「自分の生き方がしっかりしていて、一つ一つ心に残りました。」等の意見が寄せられ、多くの方に良かったと評価され、今後も参加したいとの意見が多かった。本年度も、特に評価の高い講演会であった。 ○非行防止 ・12回の巡視活動を行い1件の指導を行った。【成果指標③】また、三郷町要保護児童対策地域協議会や地域・学校等との連携を図り、非行の指導に随時あたった。 ○不登校対策 ・不登校生徒の送迎を行うことにより、当該生徒の登校意欲を高めることができた。 ○成人式 ・対象者226人に対し参加者が138人、出席率としては61.1%であった。【成果指標④】 ※青少年の育成については、単純に分析することは困難であるが、年々、家庭・学校・地域・行政の協働と連携の強化は図られており、非行行為の早期発見、的確な助言及び指導を通じて非行行為の未然防止及び問題解決に努めている。

②成果指標

事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)	
①親子のつどい	参加人数	人	86	119	H23	645,620
②教育講演会	参加人数	人	191	194	H24	543,411
③非行防止巡視	巡視回数	回	13	12		
④成人式	参加人数	人	165	138	H23	260,320
					H24	195,834

③事業の課題	【継続的な課題】 ①非行防止 ・巡視において青少年に対して指導は行うが、補導等の権限がなく警察との連携が必要となっている。 ②成人式 ・参加者が少なく、参加率の向上が必要である。 【新たな課題】

5　改善方法･結果(ACTION)

課題の改善方法･結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①警察との連携として、所轄の警察署に巡視時に同行を依頼するとともに、これまで同様に青少年育成三郷町民会議の委員である町内各種団体代表の皆様に協力を頂き、非行防止巡視において青少年に対して指導を行う。また、同町民会議委員でもある少年補導員や青少年指導員へ、より一層の協力を求める。 ②成人式の参加率を向上させるため、新成人が成人式に関心をもつ内容となるよう、新成人の意見などを取り入れるよう検討中である。 【新たな課題に対する改善方法の検討】

6　今後の計画･方向性(PLAN)

事業の計画･今後の方向性	☑ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☐ 見直し	(内容)　☐ 予算拡充　☐ 予算削減　☐ 事業拡大　☐ 事業縮小　☐ 手法見直し　☐ 休止･廃止
	・青少年の育成は地域の協力が必要不可欠であり、今後も関係機関等が連携を密に図りながら取り組みを行う。	

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	⑭人権教育･啓発の推進	担当課名	生涯学習課	総合計画位置づけ	第4章･第1節の①②
基本方向	・住民の自発的な啓発活動を促進するため、情報や学習機会の提供などの支援を強化するとともに、学校教育や社会教育を通じて人権教育の内容の充実を図ります。 ・行政、関係機関・団体の連携によって、住民の立場に立った、利用しやすい人権相談窓口と体制の充実を図ります。				

2　事業概要･目的(PLAN)

事業概要･目的	○識字学級 ・教育を受ける権利を保障されなかった方に文字などを学習する機会を提供する。 ○人権教育地区別懇談会 ・暮らしの中にある疑問や不合理などを話し合い、人権問題を身近な問題としてとらえ人権確立を図る。 ○人権問題学習セミナー ・人権教育の推進を図るための人権問題学習セミナーを実施する。 ○人権に関わる相談や対応 ・人権に関わる相談や人権侵害事象に対応するため、関係機関と連携を図りながら問題解決を行う。

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果	○識字学級 ・毎週月・木曜日に学級を実施し、学級生は学習意欲が高く熱心に学習されていた。 登録者数：5人 ※学習内容としては、文字の練習、数字の計算等を学んだ。 ○人権教育地区別懇談会 ・2011(平成23)年度の内容『個人情報の保護について～地域のつながりを紡ぎ直す～』を更に深め、災害の脅威が一段と増す中、『地域防災と人権について』をテーマとした。 災害が起きたときに必要な「自助」「共助」「公助」の中でも、特に、防災の要となる「共助」について、個人情報を有用に活用して地域のつながりを紡ぎ直すという視点から、自主防災組織を充実させ、災害に強いまちづくりについて考えていただこうと、町内15会場で開催した。 延べ参加人数：600人 ○人権問題学習セミナー ・年間5回のセミナーを行った。 内容は講座として「国際交流の現状と課題」・「みんなちがって みんないい～知ってほしいな 自閉症・発達障害のこと～」・「ともにつながって生きる地域社会を～だれもがよりよく生きあうために～」を演題として３回開催した。 また、現地学習として「県営福祉パーク・水平社博物館」・和歌山県有田郡広川町の「稲むらの火の館」の現地に赴き学習を行った。 延べ参加人数：303人 ○人権に関わる相談や対応 ・人権問題啓発活動推進本部、人権教育推進協議会などの関係機関と連携を図り、「第24回人権を確かめあう日 県内一斉集会」、「差別をなくす町民集会」などの人権に関わる事業を共に行った。 ・随時人権相談に応じるとともに、三郷町要保護児童対策地域協議会などとも連携を図り、問題解決にあたった。

4 点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○識字学級 ・年間通して週2回の開催計画で実施しているが、学級生の都合により休校した日もあり、年間で69回の開催となった。【成果指標①】 ○人権教育地区別懇談会 ・参加者が前年度に比べ増加した。また、参加者にアンケートを実施したところ、「自助・共助・公助でつくる災害に強いまちづくりの必要性を感じた」「災害からいのちを守るために、どうすればよいかよくわかって良かった」という回答があった。【成果指標②】 ○人権問題学習セミナー ・参加者が前年度に比べ増加した。人権に関する講座や現地学習を行うことにより、共に生きる地域づくりが図られた。【成果指標③】 ○人権に関する相談や対応 ・関係機関と連携を図り、人権に関する相談等に応じた。

②成果指標

事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)
①識字学級	実施回数	回	63	69	H23 13,645 H24 12,840
②人権教育地区別懇談会	参加者数	人	505	600	H23 397,900 H24 397,250
③人権問題学習セミナー	参加者数	人	253	303	H23 245,750 H24 271,300
					H23 H24
					H23 H24

③事業の課題	【継続的な課題】 ①識字学級について、学級生は高齢や健康上の理由により、突然活動が中断されるかも知れないという課題を常に抱えている。 ②人権教育地区別懇談会について、参加者数が増加しているが、今後も一人でも多くの参加が望まれる。 ③人権問題学習セミナーについて、参加者数が増加しているが、より多くの方に参加していただける内容の企画が望まれる。 ④人権教育地区別懇談会や人権問題学習セミナーにおいて、若年層の参加が少ないため講座の内容等検討する必要がある。 【新たな課題】

5 改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①識字学級は、学級生が参加しやすい曜日・時間帯や健康状態等を考慮しながら、学級運営をしていく。 ②人権教育地区別懇談会及び人権問題学習セミナーについては、参加者の増加を図るため、自治会をはじめ関係機関へ周知をより一層行うとともに、テーマについてもその時々の社会情勢などを十分勘案しながら取り組んでいく。 【新たな課題に対する改善方法の検討】

6 今後の計画・方向性(PLAN)

事業の計画・今後の方向性	☑ 現状維持 ☐ 見直し	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可) (内容) ☐ 予算拡充 ☐ 予算削減 ☐ 事業拡大 ☐ 事業縮小 ☐ 手法見直し ☐ 休止・廃止
	・人権は誰もが持っている普遍的な権利であり、人権が尊重される地域社会を目指すため、情報や学習機会の提供を図るともに、今後も人権相談等の体制を充実する。	

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	⑮文化センターの充実	担当課名	生涯学習課	総合計画位置づけ	第1章･第3節の②
基本方向	・講座修了のグループが、個々の活動を自主的に展開できるよう、コーディネート体制の確保を図ります。 ・施設の有効利用を図るため、使用料の設定など、運営の改善に努めます。 ・施設の機能向上を図るため、利用者のニーズにあった改修を計画的に進めます。				

2　事業概要･目的(PLAN)

事業概要･目的	○グループ活動の支援 ・自主的な文化活動を行うグループなどに対し、有意義な活動ができるよう支援を行う。 ○各種講座の開設 ・文化センターにおいて、町民の芸術文化に対する関心を高めてもらうため、文化講座、健康講座等を実施する。 ○指定管理者の指定 ・民間の経営や事業展開のノウハウを活用し、より充実した施設管理を行うため、財団法人三郷町文化振興財団を指定管理者に指定する。それにより当該財団の自主事業との相乗効果が期待できる。

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果

○公開講座　　[単位/人]

・映像歴史教室	延べ受講者数	20	3回開催	
・源氏物語	延べ受講者数	17	3回開催	
・観光復興のまちづくり	延べ受講者数	28	1回開催	奈良産業大学公開講座
・暮らしに活かすマーケティング	延べ受講者数	20	1回開催	奈良産業大学公開講座
・地震活動期の日本	延べ受講者数	31	1回開催	奈良産業大学公開講座
	合　計	116		

○文化講座・健康講座

[単位/人]

	講　座　名	内　　容	延受講者数 平成23年度	延受講者数 平成24年度
1	パッチワーク＆お針物	基礎的な技法を学び日常小物から個別に実習をします。	184	101
2	声楽教室	発声練習と親しみやすい日本歌曲を歌います。	238	257
3	ピアノ	初心者の方歓迎。基礎からメロディーまで学びます。	77	123
4	着付け教室	着物の自装や帯結びなどマスターできます。	84	119
5	おしゃれ＊パーソナルカラー	自分に合う色を知り、楽しい生活を彩ります。	70	101
6	フラダンス	自然賛歌を全身で表現、心と体を癒します。	113	119
7	気功	18式気功と座禅を学び、心身を整えます。	96	128
8	入門太極拳	「入門太極拳」の8つの動作を学びます。	115	195
9	ヨーガ	全身の歪みを調整し、呼吸法で免疫力をアップします。	107	223
10	ボディメイク	筋力を高めて、美しいカラダを創ります。	116	114
11	健康ストレッチ	ダンスのステップを用いて全身のストレッチを行います。	114	111
12	ゆる体操初級	固まった身体をゆるりとほぐして血行を促します。	140	168
13	ピラティス入門	体内のコアな筋肉を鍛えて、全身を整えます。	119	113
14	キッズダンス	バレエ・ジャズダンス・柔軟で表現力を磨きます。	118	157
15	こどもフィットネス	手遊び・道具遊びで、楽しくリズム感を育てます。	100	105
16	茶道入門	楽しく礼儀作法を学び、お茶の心に親しみます。	—	57
17	初級英会話	基礎から簡単な日常会話まで楽しくレッスンします。	—	115
18	陶芸	食器、花器等の成型及び簡単な加工・釉掛けします。	—	49
19	楽しい寄せ植え	初心者の園芸のコツと、四季に応じた寄せ植えを実習します。	—	62
20	男の料理教室	料理、始めてみませんか？作る楽しさ、味わいます。	—	101
21	ふわふわパンと簡単デザート	ミキサーと手ごねで美味しいパンと簡単デザートの作り方を学びます。	—	89
22	和菓子・ケーキ	基礎と理論を学びながら、四季折々のお菓子作りを楽しみます。	—	57
23	絵手紙	草花や日常生活品を題材にして、絵と言葉を彩やかに表現します。	182	—
24	初級中国語	発声練習と簡単なあいさつから始まり、会話レベルまで習得します。	122	—
		合　計	2,095	2,664

○文化センター利用者数　　[単位/人]

	平成23年度	平成24年度
・文化ホール	8,354	8,592
・展示ホール・ロビー	6,390	3,927
・会議室・研修室・音楽室	26,582	25,278
・創作室・和室・茶室・視聴覚室	16,131	15,439
・その他（リハーサル室ほか）	9,560	10,253
合　　計	67,017	63,489

4 点検評価･課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○公開講座 ・「奈良産業大学公開講座」に関してはテーマによって受講者数の増加が見込まれるが、「映像歴史教室」及び「源氏物語」については定員からの受講率が30%と数値的に厳しい状況である。【成果指標①】 ○文化講座・健康講座 ・平成24年度は、講座を平成23年度から5講座増やし、文化講座と健康講座を合わせて22講座を実施し、延べ2,664人の方々が参加された。受講者数が前年度比で25%以上増加していることから、当初の目的であった内容の充実を図ることによって多くの受講者を得るということは達成できた。【成果指標②】 ○文化センター利用状況 ・平成23年度、24年度と利用者数が減少している。平成23年度は東日本大震災の影響もあったと思われるが、平成24年度も減少が止まらなかった。補助団体等の所属団体に対する減免制度がなくなる平成25年度の利用者数の推移を注視する必要がある。【成果指標③】

②成果指標

事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)
①公開講座	参加者数	人	160	116	H23 319,000 H24 141,000
②文化教室	参加者数	人	2,095	2,664	H23 1,800,000 H24 2,448,000
③文化センター	利用者数	人	67,017	63,489	H23 37,480,853 H24 37,278,864
					H23 H24
					H23 H24

③事業の課題	【継続的な課題】 ①公開講座 ･住民が要望する講座を適時適切に開設する必要がある。 ②施設の維持管理 ･経年劣化による不具合や故障が頻発しており、計画的に改修する必要がある。
	【新たな課題】

5 改善方法･結果(ACTION)

課題の改善方法･結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①公開講座については、様々な機会を通じてアンケートを実施するなど住民要望を把握するとともに、社会情勢を的確に捉えて実施する。 ②施設の修繕については、緊急度と財政状況を勘案しながら計画的に改修する。
	【新たな課題に対する改善方法の検討】

6 今後の計画･方向性(PLAN)

事業の計画･今後の方向性	☑ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☐ 見直し	(内容) ☐ 予算拡充 ☐ 予算削減 ☐ 事業拡大 ☐ 事業縮小 ☐ 手法見直し ☐ 休止･廃止
	・指定管理者の指定により一定の成果があることから、今後も教育委員会事業と文化振興財団事業の連携により住民の自主的な文化活動の支援体制を強化する。	

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	⑯文化活動への支援	担当課名	生涯学習課	総合計画位置づけ	第1章･第3節の③
基本方向	・文化活動団体について、地域の文化活動を支える人たちを掘り起こし、それぞれに魅力を持たせ、会員の輪を広げていきます。 ・今後も、文化活動団体育成のための支援に努めます。				

2　事業概要･目的(PLAN)

事業概要･目的	○いろいろな分野から生涯学習の指導者等を掘り起こし、文化活動はもとより身近な生活課題や地域づくり等につながる学習活動の支援ができるシステムを整備する。 ○三郷町各種団体等運営補助金交付要綱に基づき、各種団体の活動及び運営に要する経費を予算の範囲内で補助金として交付し、文化の振興及び向上を図る。 ①三郷町文化協会 ②三郷町地域婦人団体連絡協議会 ③三郷町子ども会連合会 ④三郷町民文化祭実行委員会 ⑤三郷町芸術祭美術展実行委員会

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果	○生涯学習の指導者等の活用支援 ・生涯学習の学級や子ども人権学習支援事業の講師の選定において、地域の団体・個人と連携を図ることにより指導者の掘り起こし及び講師としての協力を得ることができた。 ①家庭教育学級　7回（健康体操、調理学習、体験学習等） ②長寿学級　　8回（健康体操、体験学習等） ③くれない学級　8回（健康体操、調理学習、教養講座等） ④三郷町子ども人権学習支援事業　6回（軽スポーツ、ゲートボール、調理体験等） ○団体への助成 ①三郷町文化協会（補助金額：320,000円） 目　　的：町の文化活動の中核団体として、文化の振興と向上、会員相互の親睦を図り、かつ個人の教養を高める。 主な事業：総会、文化協会まつり、人権学習会を開催し、随時役員会を開催。 第44回三郷町民文化祭の運営に協力するとともに、研修会等を開催し会員の知識の向上を図ることができた。 ②三郷町地域婦人団体連絡協議会（補助金額：210,000円） 目　　的：会員相互の親睦を図り、教養を高め家庭生活の樹立と平和で民主的な社会の建設に努めるとともに、女性の地位向上を目指す活動の支援・協力を行う。 主な事業：総会、環境学習等の学習会、町の各事業への参加、また、老人福祉施設へのボランティアを行った。 ③三郷町子ども会連合会（補助金額：288,000円） 目　　的：子どもたちの健やかな育成を図るとともに、三郷町子ども会連合会活動を通して地域の連帯力と子どもたち一人ひとりの社会生活能力を高める活動の支援・協力を行う。 主な事業：総会、子ども会の日（8月8日）にプール遊び等を実施。他に、リーダー研修会、まぜこじゃの会、どろんこあそびの会等を開催した。 ④三郷町民文化祭実行委員会（補助金額：662,438円） 目　　的：三郷町民文化祭の開催にかかる企画、準備、運営等を協議する。 主な事業：第44回三郷町民文化祭を開催し地域文化の振興を図ることができた。 ⑤三郷町芸術祭美術展実行委員会（補助金額：377,265円） 目　　的：三郷町芸術祭美術展の開催にかかる企画、準備、運営等を協議する。 主な事業：町民と近在住民の芸術に対する関心を高めるとともに、交流振興を図ることを目的に「第25回三郷町芸術祭美術展」を開催し、163点の作品が出展され、855人の来場者があった。

4 点検評価･課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○生涯学習の指導者等の活用支援 ・生涯学習を行う機会において、地域の指導者の協力を得て活用することにより、より活発な活動ができた。 ○団体への助成 ・文化の振興、芸術の向上に寄与するため、各種団体に補助金を交付し所期の目的を達成できた。【成果指標①】 ○三郷町民文化祭実行委員会 ・平成24年10月27日・28日に、町内の多くの団体との協働により第44回三郷町民文化祭を開催し多数の来場者があり身近な文化にふれあうことができた。【成果指標②】 ○三郷町芸術祭美術展実行委員会 ・平成24年9月14日～17日に第25回三郷町芸術祭美術展を開催し、163点の作品の出品があった。町内外の文化の振興、芸術の向上が図られた。【成果指標③】 ・参加者にアンケートを実施したところ、多くの方が現行の開催方法で良いとの意見であった。

②成果指標

事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)
①各団体への補助金	補助金額	円	968,000	818,000	H23 968,000 H24 818,000
②三郷町民文化祭実行委員会	参加団体数	団体	89	81	H23 710,748 H24 662,438
③三郷町芸術祭美術展実行委員会	来場者数	人	1,046	855	H23 373,414 H24 377,265
					H23 H24
					H23 H24

③事業の課題	【継続的な課題】 ①生涯学習の事業実施に伴い、地域に埋もれている指導者等の人材を掘り起こすシステムづくりが必要である。 ②三郷町地域婦人団体連絡協議会については、会員数が年々減少しており、会員を増加し、組織力を強化する必要がある。 【新たな課題】 ①三郷町文化協会に所属している下部団体の退会が多くなっている。新規入会を促すようなシステム作りが必要である。 ②三郷町には文化活動推進を目的とする補助団体として、財団法人三郷町文化振興財団・三郷町文化協会・三郷町芸術祭美術展実行委員会・三郷町民文化祭実行委員会とあり、それぞれが独自で活動を続けていた経緯がある。しかし、現状ではどの団体においても会員や来客数を確保することに苦心しており、今後それぞれの活動を連携していく必要がある。

5 改善方法･結果(ACTION)

課題の改善方法･結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①人材を掘り起こすため、地域や団体・機関と連携を図り、指導者等の人材確保と支援に努める。 ②婦人会の会員を増加させるため、広報等で周知を図ったが、会員数がなかなか増えないため、新たな方法を検討する必要がある。 【新たな課題に対する改善方法の検討】 ①町のホームページを利用し会員募集を行う。 ②各団体のイベントを共同で行う他、他団体の教室や研修会に積極的に参加をする。 ③三郷町文化協会に入会する魅力、利点を考える必要がある。

6 今後の計画･方向性(PLAN)

事業の計画･今後の方向性	☑ 現状維持 ☐ 見直し	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可) (内容) ☑ 予算拡充 ☐ 予算削減 ☐ 事業拡大 ☐ 事業縮小 ☐ 手法見直し ☐ 休止･廃止
		・地域に埋もれている貴重な人材掘り起こし、様々な学習活動の支援をいただくとともに、指導者の育成及び支援を合わせて行う。 ・現在活動をされている団体・個人に対しても引き続き支援を行う。

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	⑰図書館の充実	担当課名	図書館 (生涯学習課)	総合計画位置づけ	第1章･第3節の④
基本方向	・住民の生涯学習に対するニーズに応えるため、蔵書・資料の充実を図り、資料収集を継続します。 ・誰もが気軽に利用できる住民の学習、ふれあいと憩いの場とするため、各種館内サービスや行事の充実に努めます。				

2　事業概要･目的（PLAN）

事業概要･目的

○資料・情報の提供
図書、雑誌、新聞をはじめＣＤ、ＤＶＤなどの音響・映像資料を含む各種の図書館資料を幅広く収集して子どもから高齢者まで様々な方々の求める資料を的確にできるだけ早く提供する。また、館内のインターネットアクセス端末によりネット情報の提供を行う。

○子どもの読書の推進
絵本や児童図書の利用の促進（季節やテーマに沿った絵本の面展示＜表紙を見せる＞の実施、小中学生向け調べもの学習資料の充実）と共に、乳幼児向け（ブックスタート、ゆりかごおはなし会）、児童生徒向け（おはなし会、土曜の午後のおはなし会、夏・冬のつどい、本の森探検隊）などの年齢層に合わせた各種の行事を継続して行うことにより、子どもの読書の推進を図る。

○生涯学習事業の推進
映画上映会（毎週土曜日）、大正琴やギターの演奏会のほか、講演会等を実施して、人々が集い、交流する生涯学習の場を提供する。

3　事業実績･結果(DO)

○平成24年度統計

	平成２３年度	平成２４年度
蔵書冊数	２２７，４０５冊	２３１，３４４冊
入館者数	２０２，５２７人	２００，４８３人
貸出人数	９２，８７２人	９０，７６３人
貸出冊数	２７８，０１１冊	２７３，１６３冊

○図書館行事

行事名	概要	参加人数	
		平成２３年度	平成２４年度
ブックスタート	７ヶ月検診にあわせて赤ちゃんと保護者に絵本の世界に誘う	１３８人	１５９人
ゆりかごおはなし会	０～２歳の幼児と保護者対象に絵本の読み聞かせ・手遊びなどを行う	２０６人	１５６人
おはなし会	毎週日曜日に小さい子ども向け、大きい子ども向けに分けて絵本の読み聞かせやストーリーテリングなどを行う	９３６人	８１１人
土曜の午後のおはなし会	土曜日にお話しボランティアによって絵本の読み聞かせやストーリーテリングを行う	１０５人	６９人
夏のつどい	ペープサートや人形劇など子ども向けの行事を行う	４３人	６０人
映画上映会	名作映画の上映会を実施した	３，００７人	２，９２３人
本の森探検隊	テーマを設定した本を探して楽しみつつ本に親しむ	２２人	１２０人
フロアーコンサート	年５回図書館の開架室でギターマンドリンコンサートを行った	２１２人	１４１人
大人のためのストーリーテリング	大人向けにストーリーテリングの面白さを伝えるために実施した	２０人	２０人
四国八十八か所講演会	四国霊場を徒歩で回られた方からの体験談をお聞きした	２５人	２６人
大正琴コンサート	大正琴の素敵な音色で楽しい時間を過ごした	１８０人	２００人
ギター演奏会	ギターのグループによる演奏会	１８０人	８０人
冬のつどい	ペープサートや人形劇など子ども向けの行事を行う	３５人	４７人
ぬいぐるみのとしょかんおとまり会	預かったぬいぐるみが図書館で遊んでいる姿をアルバムにして渡す	１６人	１４人
絵本の読み聞かせ連続講座（全３回）	絵本の読み聞かせを通して親子の絆を深める	―	５７人
ヤトガコンサート	モンゴルの弦楽器「ヤトガ」による演奏会	―	１１４人
子ども読書講演会	子どもの育ちと絵本の世界	１１人	―
図書館講演会	三郷町の自然災害	５２人	―
春日敏邦日本画展	三郷町在住の日本画家の作品を展示した	３８０人	―
写真展	東日本大震災で被災した図書館の写真展	２３０人	―

○ レファレンスサービス
資料の所蔵調査や文献の調査などカウンターや電話、文書で寄せられる質問に対して、図書館資料を使って回答する。さらに県立図書情報館に協力依頼して回答を行う場合もある。

○ 図書館のＨＰの充実を図り、インターネットにより蔵書の検索、予約、貸出期間の延長などを実施している。モバイル端末でも同様に検索、予約、延長が可能である。

○ ティーンズコーナーを設置して中高生向けの資料を別置して提供している。

○ 絵本の利用を促すため、季節やテーマに沿った面展示を２０テーマで実施した。

○ 「ブックスタート」や「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」など子どもの読書活動をひろげる事業を県内でも比較的早くから行っていたことが認められ、『平成24年度子どもの読書活動優秀実践図書館』文部科学大臣表彰を受賞した。

4　点検評価・課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○資料・情報の提供 約4,900冊の資料を購入して、利用者に提供したが、貸出人数（２％減）、貸出冊数（１．７％減）ともに前年を下回った。また、図書館への入館者数も１％の減少となった。【成果指標①】一方、図書館システムの更新によるインターネット環境の整備により、ネットでの予約件数が増加した。 ○子どもの読書推進 乳幼児向け、児童生徒向けに年齢層にあわせて各種の事業を年間通じて実施した。参加者総数は前年度よりわずかに減少した。図書館への来館者を増やすとともに子育て支援センターや幼稚園、保育園と連携し行事への参加を促す必要がある。 【成果指標②】 ○生涯学習の推進 今年度は昨年度より事業数が減ったが、昨年の子どもの読書講演会に引き続いて、絵本の読み聞かせ講座を開催して、児童向けのサービスについての関心を高めた。その結果、絵本の読み聞かせボランティアがおはなし会に参加するようになった。また、日本では珍しいモンゴルの弦楽器「ヤトガ」のコンサートを開催し、多くの方が参加された。【成果指標③】

②成果指標

事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)	
①資料情報の提供	貸出冊数	冊	278,011	273,163	H23	14,720,510
					H24	10,479,382
②子どもの読書推進	参加者数	人	1,501	1,436	H23	229,110
					H24	229,110
③生涯学習の推進	参加者数	人	4,297	3,561	H23	50,000
					H24	55,000
					H22	
					H23	

③事業の課題	[継続的な課題] ①図書館を利用されていない方々に対していかに図書館を利用していただくかを検討する。 ②おはなしボランティアを増やすこと。 ③小中学校や保育所、幼稚園などとの連携を一層進める。 [新たな課題]

5　改善方法・結果(ACTION)

課題の改善方法・結果	[継続的な課題に対する改善方法及び結果] ①一般向けの事業数が減ったことで来館者数が減少しており、生涯学習の観点から事業の実施を検討し、図書館への関心を高め、利用者数を増やしていく。また、図書、資料の魅力を伝える広報活動を強めて、図書館ＰＲをより一層展開する。 ②平成24年度に実施した読み聞かせ講座の受講生からお話しボランティアが生まれており、また、自主的な絵本勉強会も行われている。この絵本勉強会への参加者を募って、さらにボランティアの育成を図る。 ③学校への団体貸出や図書館の見学会を継続するとともに、平成24年度から行われている図書室担当教員との連絡会をさらに重ねることにより、連携・協力の在り方を検討し、支援する。また、幼稚園には絵本や紙芝居の大量貸出しを行い、協力支援を進めており、今後も継続していく。 [新たな課題に対する改善方法の検討]

6　今後の計画・方向性(ＰＬＡＮ)

事業の計画・今後の方向性	☑ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☐ 見直し	(内容)　☐ 予算拡充　☐ 予算削減　☐ 事業拡大　☐ 事業縮小　☐ 手法見直し　☐ 休止・廃止
	・町民への資料情報の提供という図書館の基本的業務を確実に実施しながら、様々な行事を通じて図書館の魅力をアピールして、さらに多くの方々が図書や情報に触れ、親しむ環境作りをさらに進める。 ・小中学校図書室の機能充実を図るため、平成24年度から町立図書館との定期的連絡会を実施しているが、更に充実させるとともに学校図書室への支援を行い、児童・生徒の読書推進を図る。 ・来場者数が平成25年8月頃に400万人に達することから、その記念セレモニーを行う。	

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	⑱文化財の保護と活用	担当課名	生涯学習課	総合計画位置づけ	第2章･第4節の①②③
基本方向	・国・県と連携しながら文化財保護に努め、案内看板・説明看板の整備など環境の整備に努めます。 ・民間団体による調査活動を支援するとともに、住民団体と協力して歴史的資料の発掘及び保全・管理をするための調査を進めます。 ・文化財の保全・管理・展示を行う郷土資料室のあり方について検討します。 ・ボランティアの育成に努めながら、地域の歴史にふれる機会の充実を図ります。				

2　事業概要･目的(PLAN)

事業概要･目的	○文化財の保護 ・後世に継承すべき文化財の保護保存をしていくため、国・県等の関係機関と連携を図りながら町内の文化財の確認作業及び指定文化財等への保存助成、環境整備を行う。 ○文化財の啓発・活用 ・町内の文化財について広く町民等に啓発できるよう、企画立案する。 ・文化センター内に設置している「郷土資料室」の有意義な活用を図る。 ○地域の歴史学習の機会の提供等 ・生涯学習の一環として、地域の歴史を学ぶ教室を開催する。また、歴史・文化財に係る地域のグループ等がより充実した活動ができるよう協力・支援する。

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果	○文化財の保護 ・現在、町内には国指定重要文化財3点、県指定文化財1点、町指定文化財13点、国登録文化財1点がある。それぞれの文化財の保存及び活用については、その所有者と連携を図り適切な対応を行った。 ・遍照院シダレザクラ（町指定）の樹木消毒の維持管理経費の一部助成を行った。 ・（薬隆寺）八幡神社本殿（国指定）の防火対策の意見交換を行った（国への補助請求含む）。 ・持聖院線刻薬師如来笠石仏（町指定）の移設（H25年度予定）にあたり工事内容の意見交換を行った。 ・奈良県からの委嘱により、定期的に町内文化財の巡視と適切な保護を行った。 ○文化財の啓発・活用 ・町内に関連する万葉歌の啓発グループである「わがふるさとの万葉歌プロジェクト」により、教育委員会協力のもと『わがふるさとの万葉歌』の改訂版を発行し、町内に関連する万葉歌の啓発を行った。 ・文化財保護週間に合わせ、地域に関する歴史の研究グループである「史学さんごう」と合同で、文化財講演会を行った。 ・町内にある文化財の説明看板の修理等を行った。 ・三郷小学校、三郷北小学校児童の文化センター郷土資料室への訪問があり、「史学さんごう」の協力のもと児童達に農具や古民具について説明を行った。 ○文化・歴史学習の機会 ・生涯学習の学級として「歴史教室」を開講し、身近な歴史等を学ぶ機会を提供した。 また、三郷町に関わる万葉歌が多く謳われていることをなどを踏まえ、「みさと万葉学習会」を開講し、万葉歌人の感性や歴史的な背景に触れた。 ○埋蔵文化財 ・平成22年度の三郷中央公園多目的広場建設に伴い、約15,000年前の石器のアトリエ跡である「勢野東遺跡」が発掘されたことにより、平成23年度より5カ年計画で、勢野東遺跡発掘調査報告書の作成業務を奈良県に委託している。

4　点検評価･課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○文化財の保護・啓発・活用 ・文化財の維持管理に伴う経費を助成するとともに、町内の文化財の定期的な巡視を行うことにより、適切な文化財の保護が行えた。【成果指標①②】 ・町内文化財の説明板改修を行い、同時に町内で詠まれた万葉歌を掲示することで、三郷町に関連する文化財・万葉歌の啓発・活用がなされた。 ・『わがふるさとの万葉歌』の改定版を発行し新聞紙上に掲載することにより、多くの町内外の方に三郷町に関連する万葉歌の啓発・活用がなされた。 ・文化財保護週間に合わせ、教育委員会と住民団体である「史学さんごう」の共催で文化財講演会を行い大好評であったため、今後も上記団体と連携し講演会を開催する。 ○学級の開催 ・「歴史教室」は91人、「みさと万葉学習会」では54人の登録があり、1年を通じて歴史文化に親しむことができた。

②成果指標

事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)
①遍照院シダレザクラ	消毒業務	有無	有	有	H23 70,000 H24 84,040
②（勢野薬隆寺）八幡神社本殿	防火施設点検 (国補助額)	有無	有	有	H23 15,000 H24 15,000
					H23 H24
					H23 H24
					H23 H24

③事業の課題	【継続的な課題】 ①文化財台帳に記載されている町内の文化財について現状確認を行い、所有者と意見交換を行うことで文化財保護に努める。 ②町内にて発見されている埋蔵文化財（勢野東遺跡含む）について、どのような活用をしていくか検討する必要がある。 【新たな課題】 ①指定文化財に修理等の必要が出た場合、所有者が負担の上、国・県・町とそれぞれの指定に合わせて補助が出るしくみとなっているが、現状では所有者の負担が大きくなっている。指定文化財を維持していくには長期間にわたる所有者の理解と協力が必要なことから、極力所有者の負担を減らす体制が必要である。 ②観光担当部署と協議を行い、文化財や史跡と関連するハイキング道等の整備を行う。

5　改善方法･結果(ACTION)

課題の改善方法･結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①住民団体等の協力のもと、定期的に訪問調査を行う。 ②文化財保護審議会の意見を踏まえながら、町として維持管理できる形で活用方法を検討していく。 【新たな課題に対する改善方法の検討】 ①文化財の所有者と定期的に意見交換を行い、それぞれの所有者の負担状況の確認を行う。また、負担が大きくなり過ぎないよう、国・県へも補助を要望するとともに、町の補助制度の見直しも検討していく。 ②訪問者にとって歩きやすく理解しやすい看板等を設置、整備し誘導を行う。

6　今後の計画･方向性(PLAN)

事業の計画･今後の方向性	☐ 現状維持	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可)
	☑ 見直し	(内容)　☑ 予算拡充　☐ 予算削減　☐ 事業拡大　☐ 事業縮小　☐ 手法見直し　☐ 休止･廃止
	・文化財を観光資源の１つとし、案内看板の補修、新設を行い地域の活性化を図る。 ・住民団体を活用し、定期的な文化財の調査から講演会等のイベントまで協力しながら行う。 ・小学校の郷土学習や町の各種イベント（ハイキングやウォーク等）の中に文化財保護や万葉歌についての部分を入れられないか検討していく。	

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	⑲生涯スポーツの推進	担当課名	生涯学習課	総合計画位置づけ	第1章･第4節の①②③
基本方向	・誰でも継続的に気軽に楽しめるスポーツの機会を提供するため、指導者やボランティアリーダーの育成に努めます。 ・健康づくりや交流の場となる軽スポーツの普及に努めます。 ・青少年のスポーツ活動の振興を図り、そのための環境整備や自主的な活動への支援に努めます。				

2　事業概要･目的(PLAN)

事業概要･目的	○スポーツの推進 ・スポーツを通して町民が生涯にわたり心身ともに健康な生活を営むため、三郷町体育協会や三郷町スポーツ少年団及び三郷町スポーツ推進委員などと連携し、スポーツを推進するとともに、身体づくり及び健康づくりを図る。 ○軽スポーツ事業 ・自分にあったスポーツライフの実現と競技の技量を身につけてもらうことを目的に、各種スポーツ等を実施する。 ○「総合型地域スポーツクラブ」の創設 ・住民の主体的な運営により、すべての世代の住民が楽しめる「総合型地域スポーツクラブ」の創設を目指す。

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果	○スポーツの推進 ①町民体育祭の開催 ・地域社会がスポーツイベントを通じてスポーツに親しみ、町民の輪を広げることをテーマに、三郷町体育協会主催で三郷町スポーツ少年団や他の各種団体の協力のもと、10月7日に三郷中央公園多目的広場において第42回町民体育祭を開催した。 ②野球審判講習会 ・盛んなスポーツの一つとして野球があるが、試合等の審判及び指導者の育成を行うとともに、ルール等の改正に対応するため、4月15日に審判講習会を開催した。 ③関係団体に補助金の助成 【三郷町体育協会】 目的：スポーツの普及振興と競技団体の育成強化を図り、町民の健康増進と体力の向上に努め、明るく活力ある地域社会づくりに寄与する。 ※補助金額　　2,139,268円 【三郷町スポーツ少年団】 目的：加盟団体の資質の向上を図り、スポーツ振興意欲を高める。 ※補助金額　　617,770円 ④三郷町スポーツ推進委員 ・子ども人権学習支援事業や福祉関係のイベントなどに出向き、スポーツ振興のため住民に対しスポーツの実技指導等を行った。 ○軽スポーツ事業 ・三郷町体育協会主催で9月23日に軽スポーツフェスティバルを開催し、軽スポーツの普及に取り組んだ。 ○「総合型地域スポーツクラブ」の創設 ・関係機関との連携及び情報交換を行い、設立準備委員会を立ち上げ、会議を5回行い、3月にはプレイベントを行った。

4　点検評価･課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ○スポーツの推進及び軽スポーツ事業 ・町の社会体育の最大イベントである第42回町民体育祭を10月7日に、三郷中央公園多目的広場において三郷町体育協会及び三郷町スポーツ少年団等の協力により開催した。【成果指標③】 ・三郷町スポーツ推進委員が地域に出向き、軽スポーツ等の振興を図ることができた。 ○関係団体に補助金の助成 ・「三郷町体育協会」及び「三郷町スポーツ少年団」に補助金を助成し、スポーツ振興に関わり育成及び強化を図ることができた。【成果指標①②】 ○総合型地域スポーツクラブ ・設立準備委員会を立ち上げ、3月にはプレイベントを実施し、約370人の参加者があった。

②成果指標

事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)
①三郷町体育協会	補助金	円	1,954,237	2,139,268	H23 1,954,237 H24 2,139,268
②三郷町スポーツ少年団	補助金	円	668,936	617,770	H23 668,936 H24 617,770
③町民体育祭	補助金	円	468,555	923,222	H23 468,555 H24 923,222
					H23 H24
					H23 H24

③事業の課題	【継続的な課題】 ①昨今、様々なニュースポーツが発案され行われていることから、本町においてもその種目の取り入れ方法を検討するとともに、既存の種目においても、競技人口が減少しているものがあり今後の運営の在り方を検討する必要がある。 ②住民の主体的な運営により、すべての世代の住民が楽しめる「総合型地域スポーツクラブ」を創設する。 【新たな課題】 ①「総合型地域スポーツクラブ」を創設する上で人件費などの町のバックアップ体制の確立が課題となっている。

5　改善方法･結果(ACTION)

課題の改善方法･結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①新しいスポーツ種目については、競技の目的・ルール等を十分把握し、実施市町村等へ出向くなど情報の収集及び分析を行い、地域への普及を検討する。 ②「総合型地域スポーツクラブ」の創設に向け、関係機関との連携及び情報交換を行い、設立準備委員会を立ち上げ、自主運営に向け準備中である。 【新たな課題に対する改善方法の検討】 ①「総合型地域スポーツクラブ」を創設する上で人件費等の予算措置が必要となってくる。

6　今後の計画･方向性(PLAN)

事業の計画･今後の方向性	☐ 現状維持 ☑ 見直し	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可) (内容)　☑ 予算拡充　☐ 予算削減　☑ 事業拡大　☐ 事業縮小　☐ 手法見直し　☐ 休止･廃止
	・誰もが親しみ楽しめるスポーツの普及を行うため、「総合型地域スポーツクラブ」の設立に向けて、設立準備委員会を中心に関係機関との協議や予算措置を図り、出来るだけ早い時期にクラブを設立する。	

平成24年度　教育に関する事務の点検･評価シート

1　基本事項

施策名	⑳スポーツ施設の整備	担当課名	生涯学習課	総合計画位置づけ	第1章･第4節の④⑤
基本方向	・より多くの人が気軽に生涯スポーツを楽しめるよう、現有施設の有効利用を図り、誰もが利用しやすい施設改善を図ります。 ・将来的に、財政状況も考慮しつつ、自主的・主体的な総合型地域スポーツクラブの設置を検討します。				

2　事業概要･目的(PLAN)

事業概要･目的	○スポーツ施設の整備 ・施設の整備・充実を図るとともに、生涯スポーツと競技スポーツを連携し、運動能力向上の拡充に努めることを目的に、地域スポーツの振興と拡大及び社会体育を推進する。 ○指定管理 ・民間の経営や事業展開のノウハウを活用し、より充実したスポーツ施設の管理運営を行うためスポーツセンター及びウォーターパークを合わせて管理運営を行う。

3　事業実績･結果(DO)

事業実績･結果

◎ スポーツ施設の整備
・各施設は、設置からかなりの年月が経ち、経年劣化により施設の維持修繕が必要になっていることから、修繕、改修を行い施設利用に支障のないよう安全安心な施設運用を行った。

①竜田運動公園
・ 住民が体育に関心を高め、その普及と向上発展を図るために設置。
利用種目：成人及び学童軟式野球、ソフトボール、グラウンドゴルフ、サッカー、テニス等
施設整備：テニスコートフェンス整備、真砂土の入替え、北側駐車場区角線ライン引き等を行った。
(決算額：1,837,586円)

②勢野グラウンド
・ 住民が体育に関心を高め、その普及と向上発展を図るために設置。
利用種目：学童軟式野球、女子ソフトボール、少女ソフトボール
施設整備：真砂土の入替えを行った。(決算額：211,112円)

③スポーツセンター
・ スポーツ及びレクリエーションの振興を図り、健康で文化的な生活の向上を図るために設置。
利用種目：卓球、軽スポーツ、少林寺拳法、健康体操、バレーボール等
施設整備：照明制御装置取替え、ランニングマシンの入替えを行った。(決算額：4,780,650円)

④ウォーターパーク
・ スポーツの振興及び体力の維持増進を図り、心身の健やかな発達と健康で明るい生活の向上を図るために設置。
施設整備：ウォータースライダー修繕、非常照明及び電池の取替え、受電用キュービクルの改修等を行った。(決算額：14,124,600円)

⑤中央公園多目的広場
・住民の体力の維持増進を図り、心身の健やかな発達と健康で明るい生活の向上に寄与するために設置。
利用種目：成人及び学童軟式野球、ソフトボール、グラウンドゴルフ、サッカー等
施設整備：真砂土の入替え、パトライトの移設等を行った。(決算額：453,111円)

◎指定管理
・民間のノウハウを生かし効率的かつ効果的な施設運営を行うため、平成22年度から3年間スポーツセンター及びウォーターパークを合わせて㈱翔成へ指定管理を行った。
（指定管理料28,000,000円）

○施設利用状況

施　設　名	利　用　者　数	
	平成23年度	平成24年度
健民グラウンド	31,735 人	33,716 人
テニスコート	8,291 人	9,369 人
中央公園多目的広場	43,326 人	45,001 人
勢野グラウンド	3,293 人	2,345 人
スポーツセンター	77,231 人	75,780 人
ウォーターパーク	56,928 人	65,019 人

4 点検評価･課題(CHECK)

①達成度(成果)の分析	※事業の成果、目的に対する達成度などを記入。 ◎スポーツ施設の整備 ・維持修繕や施設改修を行い、安全で安心な施設利用をしていただくことができた。【成果指標①】 ○スポーツ施設の新規運用 ・中央公園多目的広場の新設でスポーツ施設が増えたことにより、利用者が増え、住民の体力の維持増進と健康で明るい生活の向上と充実が図れた。 ◎指定管理 ・平成21年度まではウォーターパークのみを指定管理としていたが、平成22年度からウォーターパーク及びスポーツセンターを合わせて指定管理とし、民間のノウハウを生かすことができ、効率的・効果的な施設運営と経費の削減を図ることができた。【成果指標②】

②成果指標	事業名	成果指標名	単位	H23年度	H24年度	決算額(円)
	①施設整備	決算額	円	14,746,216	21,407,059	H23 14,746,216 H24 21,407,059
	②指定管理	指定管理料	円	28,000,000	28,000,000	H23 28,000,000 H24 28,000,000
						H23 H24
						H23 H24
						H23 H24

③事業の課題	【継続的な課題】 ①施設の維持管理 ・施設の経年劣化により、施設の不具合や故障が発生し維持管理が困難になっているため、計画的な施設改修等が必要である。特にテニスコートについては、経年劣化により使用に差し支えが生じており、全面張替えが必要となっている。 【新たな課題】

5 改善方法･結果(ACTION)

課題の改善方法･結果	【継続的な課題に対する改善方法及び結果】 ①施設改修等については、財政状況を勘案し、緊急性の高いものから計画的に改修を行う必要がある。 【新たな課題に対する改善方法の検討】

6 今後の計画･方向性(PLAN)

事業の計画･今後の方向性	☐ 現状維持 ☑ 見直し	※事業の方向性について、現状維持か見直しかを選択。見直しの場合は、内容をチェックする。(複数可) (内容) ☑ 予算拡充 ☐ 予算削減 ☑ 事業拡大 ☐ 事業縮小 ☐ 手法見直し ☐ 休止･廃止
	・住民が望む生涯スポーツを推進するため、現体育施設の適正な維持管理及び施設整備を行う。テニスコートについては、全面張替が困難な場合は面ごとの張替えを検討していく必要がある。	

Ⅳ　学識経験者の知見の活用

１．点検評価有識者

平成２４年度実施分の点検・評価を行うにあたり、客観性を確保するため、下記の学識経験者を点検評価有識者に委嘱し、７月にヒアリングを実施し、指導及び助言を受け、報告書に所要の修正を行った。

☆点検評価有識者：日本学生支援機構理事（大阪教育大学名誉教授）
米川 英樹

２．指導・助言の内容

なお、今年度の報告書の総括と次年度以降に改善すべき課題として、以下の指導及び助言をいただいた。

平成 24 年度における三郷町教育委員会の「教育に関する事務の点検及び評価報告書」についての点検作業は、7 月 1 日(月)に庁舎で行なわれた。全体として、適切かつ妥当な報告であり、PDCA サイクルが機能しているとの認識をもった。

施策および事業は、「三郷町第 4 次総合計画」の施策体系ごとに、20 の点検評価項目が設定され、「事業評価シート」に適切にまとめられていた。

いくつかのシートに、前年とほぼ同じ叙述が見られたため、これを改善していただきたいとの意見を述べたところ、修正された報告書では、適切に改善されており、妥当なものになっていることが確認された。

また、数値的に昨年度と比較することができる箇所についても、改善の要望を出したところ、妥当な改善がなされたことも確認された。

さらに、表現に注意書きが必要な部分についても、指摘どおり改善がなされている。

三郷町教育委員会の教育に関する事務の点検及び評価を継続的に実施してきた立場からは、毎年、レベルアップが見られており、平成 24 年度についても、これまでよりもさらに適切で妥当な点検・評価結果になっていることは明らかであり、この間の関係者のご努力について、高く評価するものである。

次年度以降も、施策のさらなる改善に向けて、期待するものである。

平成２５年８月１２日

米　川　英　樹